拾遺都名所圖會

龍書

拾遺都名所圖會卷之二目錄

龍青龍首

祇園前掛燈
祇園香煎
螢嵜
泰山府君
祇園女御
崇德馬場
山之井
堀堂
地藏院
九重丹楓
日親廟塔

同神事
二軒茶屋 合餅 湧水 阿蘭陀人休息
直菖原 長樂寺碑銘
捨山王
鷲尾
桂橋寺 宮辻
藻蟲菴旧趾
大日堂
清水隨求堂
秋葉社 獅子口 要石 鬘 明水
通妙寺 妙見社
千文萩
知恩院 補遺
歌仙堂 名大雅堂 墓碑
疫伏社
雲居寺旧跡
靈山寺
鼠堂屋敷
仲光院
尾振谷
六條院陵
良經公碑

神凞院
太子水
芭蕉堂 南無庵 芭蕉翁碑
蓮華院奮迅蹟
高臺寺 補遺 天滿宮 萩花
擧白堂旧蹟
經書堂
寶德寺
南藏院
延年寺辻子
法國寺

伊澤

袋中菴
阿佛家
城東寺
專定寺
泉涌寺　塔頭
法性寺旧蹟　同観音
晴明墓
極樂寺
勧修寺　左中十五勝
大石屋舗
赤築地
西福寺
平教盛家
智積院
雲龍院　来迎院　安楽光院　新善光寺　観音寺　悲田院　善能寺　荒光寺
俊成卿墓
光明峯　光明峯寺跡
藥師堂
昆沙門堂
小栗柄法妻檀抹
三條右大臣墳
野色止
西光寺
六道迎接
牢岸
叡宮
常盤前宅地
三聖寺
西寺古蹟
地藏院
遺迎院
田中社
明智光秀亡蹟
西之山巖屋社
小野隨心院
安祥院
焔魔堂
上行寺
新日吉社
法住寺
自然居士墳
月輪
羅刹谷
獨鈷水
稲荷山初午詣
山階八幡宮
田村將軍墳

萱尾社
北栗柄大神
牛尾名取山
白石明神社
白泡寺
梅本寺
東山寺
四宮河原
業平谷
阿弥陀堂
腹帯地蔵
大宅巖屋社　大宅寺
布引瀧
白石菴
三宮社
花山阿弥陀堂
神無森
諸葉山
奴茶屋
内裏芝
興福寺古跡
蛇ケ渕　撰金眉九藏腸
蓮如上人墳
花山稲荷の祠
元慶寺
鵠坂
十禅寺
地藏寺
外山
妙見社
法嚴寺
實如上人墳
大石斷食石
僧正遍昭墳
蝉丸塔
人康親王旧趾
護國寺

名どころをもとしを都ゐ
業因者
圖舍
そらもう
うつし画
湘夕

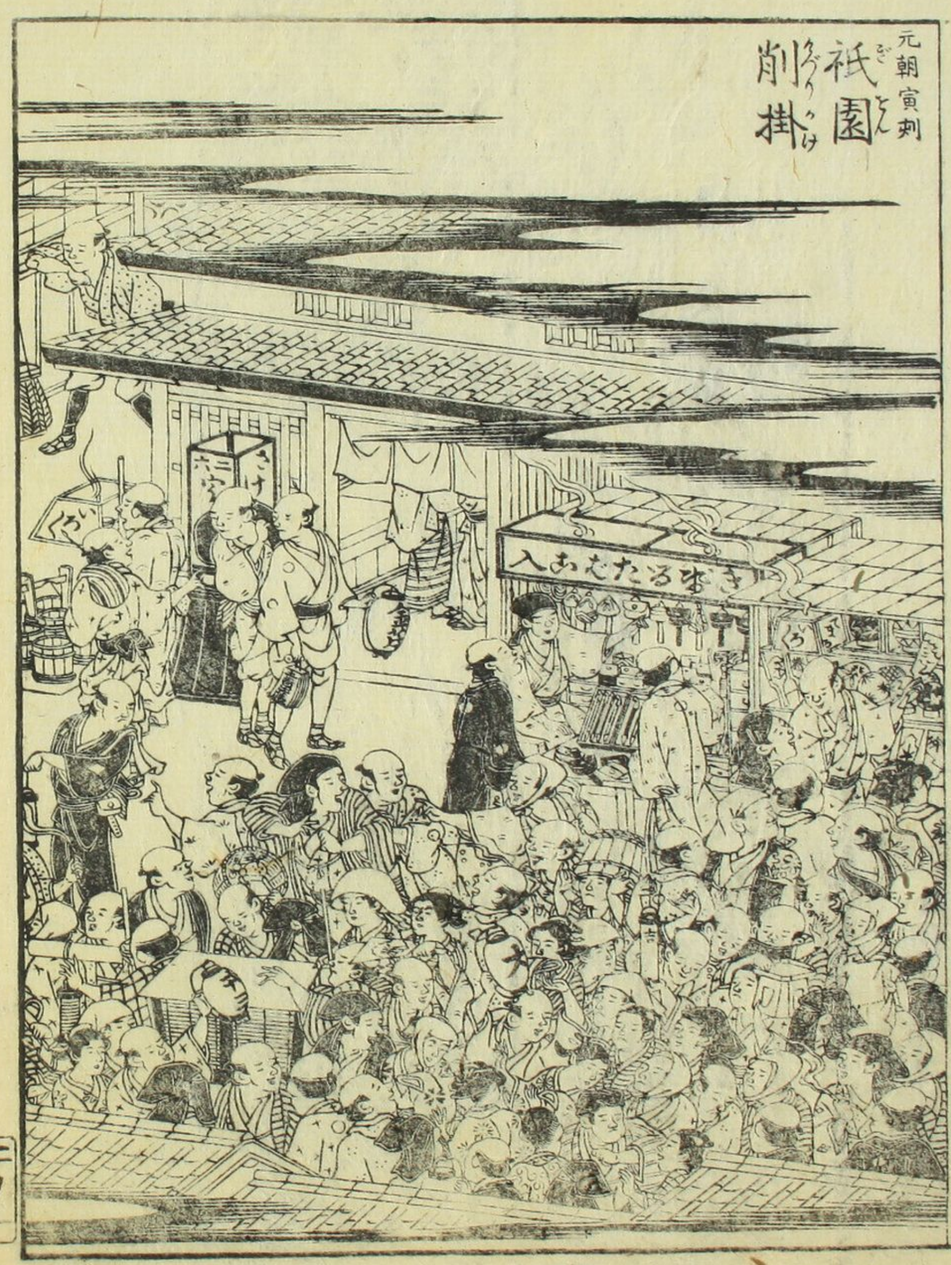


山本

二首一

元朝寅刻

祇園削掛





新の姫路城さらさらと
削かける
の
注連縄

祇園神詠　洛東祇園午頭天王の御神詠とうん仕奉献して社頭ふ植給ふ多し

玉葉　祇宿ふるその梅花さらぬ人多くの者もさうん

されハ祇園乃御ふ当社神楽所のおふ紅梅の名ふるう

かくし滿の梅

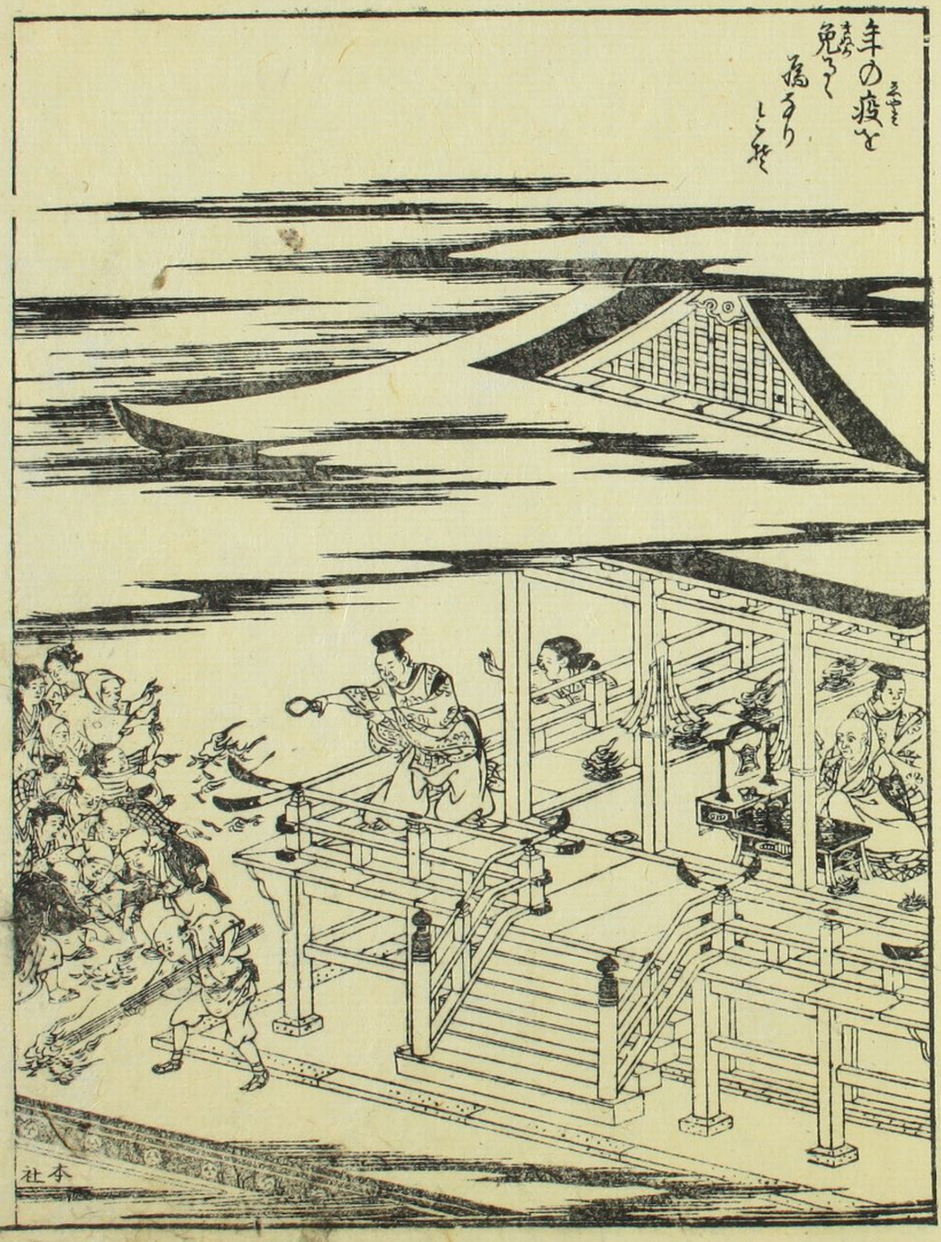
かくしはそ毎木ともふほん

今昔物語ふ祇園ハえ山階寺のお寺みそうん右々ふ祇園乃東ふ地蔵ふ乃まふ寺蓮華院ふしてふ寺あうそのふ微妙紅葉乃あうそのふ蓮華院の別當良算ふしてふ者ありその蓮華院の僧そんを制して曰の堂乃あふ微妙紅葉乃あうそのふ蓮華院の別當良算ふしてふ者ありその蓮華院の僧そんを制して曰別當いそ天台ま寺の内うま本をそろはふ案内もふにして折ふそんふ良算ふ使を乃て折ふそんふ良算ふ使を乃て折ふそんふ良算ふ使を乃て

祇園社前の
掛の神事は
例年元朝寅の
刻より社務
福寿院にて執行
於て法施をこゝに
其四方よりの前掛
の本十八所ありて
法楽終ればそれ
それ火を持
四方へ配りこゝの水
を汲んでかへり
是法陽和順の
表るしとや
かの前掛の火を
糸詰の人々火縄に
うつし一家に撒
帰りて元朝
雑煮の焼火
とぞ是をん共



年の疫を
免るゝ
為なり
とぞ



まで早出て祭事を執行ふ日の中ふ壮麗うる葛衫を揃ゑそ沸迸挑灯
乃数く跳物ふ大活ふ烈をゐし祇園鴨川の妓婦女検の車月ふ壁花ふ准
てえゐゝぬ風流放はくし頭ふ珠玉を鏤め身ふ錦繍を絡ひ女を髪
のめでさうゝんこそゝひゝを露そゝはそして剃落しむくつめた断髪甦頭
と変どある ふ色白く肌ふゝのきよゝふ肥あそうつきくるをなゝゐゝ相撲取
ほゝひゝて翠の髪を鬢毛み額ふ角を立人花ふうゐ女ゝゝゐんゝゝだ
嘻し顔ふ出立そうゐれえふ面んゝゝゐをまゐの髻ふ粧ひ女沸更衣の艶うる
姿を摸ゝ二八ふそゐぬ笑ふ年の道ふおをふ百ゝ色の娩ふ優して日の斜ふ祇
園の花街を東へ通そ沸社へ跳入るそゐ足をうんそ都鄙の人ゝ群そうう
うゝくさのまを掃ゝこの假店篇を建て浮浪放蕩の類ひどあれつすう
祇園林ふ椀敷を構て所せくまで連ておうゝめしせ度今やくくと待ところふ
前雑子の琴ゝ弦渡そゐしの鉦を敲ふ鼓ひ葉そ炎暑をふそら群を呈
大活ふ人のふそ日暮まべ神燈のかゝけ駅凭く縮張紙細工の畳う灯

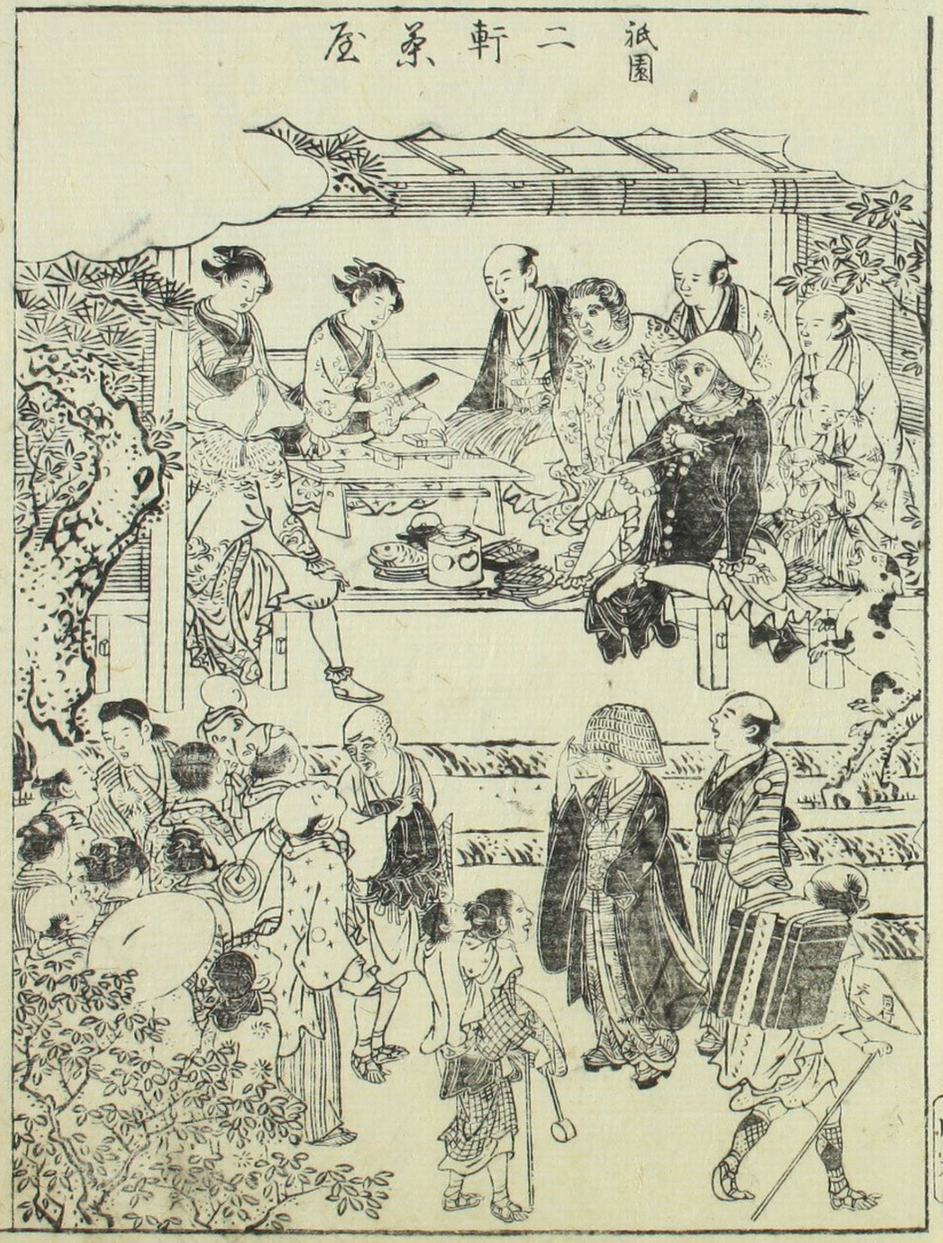
板輝ゝ囃物のおさみふ附そうとされべ洛東の祓ひ七日ふ勝るふあされ
皆神の徳そふ顕ま治国平天下の沸時ふ値て萬歳を謳ふ慶の声あうそゝ

祇園香前矣 足祇園の名産みて竹器ふ入されば販售又下河原の茶店ふ香煎を立てつゐふ
二軒茶屋 社頭の勧大花表の内ふあうゝみへ茶店ふ鐘子をうけ湯を吸し
香煎放立て社参の人乃休息所ふ具盛鰭ふ年暦久遠みて
詳ふえまこてゝ今うう百八十年ふ慶長の比東方ふ建ゝ東西両翼のゆゝ
そゝれを二軒茶屋ふしてむうゝの倒今ふありそ元朝ふふ祇園の社中そふ来る
て王服を着人初の鐘つき西方の窮ふ胴ふ紅葉唐松の模様ある名板紅葉
串ふさして豆腐ふ合せ味噌引そうそゝれ放合餅ふうゝ氷餅ふ准し物そうゝん七日
祇園會鉾乃児具外囃詣の人ゝふもうそゝれを出たゝ又六月六日ふも神楽所ふ於て
糸儀乃役人ふうれを出て糸倒ゝ又是ふ茂社沸ふ洗園子の類ひそうはをし
ゝ茶店今ふいゆへふ夜そそつゐふ萩腐放前ゝ田楽の形ゝしゝ一枝放ふして
酒飯放售ゝ所の風俗うゝそ奥肉を買ゝ事放禁ひたれ、むうゝ
山のまゝ院ふて仏壇乃かうゝ今も山門の阿闍梨一芸中
ふ各の神社巡拝しゆ時西方の茶店ふ憩たまひ毎ふ酒食あうされ
むゝ乃遺風そうゝん又阿闍陀人沸東通行の時東方の茶店ふやそゝゝん
久ゝも流例ふそうゝ
しゝそゝゝ

月をそ花ふ昔久ゝ二軒茶屋　季吟

浮水 二軒茶屋の名産ふ大梅の実放梅酢ふ漬そそゝて足酒毒をけし食滞放治そそゝん衰容憩をようそゝれを避む

祇園 二軒茶屋



阿蘭陀の細工ふ
我國の
祇園豆腐の
やうなうるさき



昔ハ大清影堂ト称ス東西廿二間又六尺又南ノ十七間ニ又六尺瓦葺南面勅額大谷寺ト書シテ後柏良帝ノ震翰アリ

本尊圓光大師影像 大師ノ御根本御自作同四十八日御開帳供養ノ霊像ニシテ御都合ニ依リ居数ノ修補ノ時ノ記アリ其中ニ又真影ノ花右ノ圖ヲ載ル所ニ天童子アリ弥陀ノ化現ナリト云ヘリ

賀茂大明神 毘沙門天ノ圖ニシテ光大師御作ノ像ト伝フ

弥陀三尊 東橋中央ノ安置ニシテ上足覚明供奉ノ作ト云フ

釋迦像 堂後ノ安置ニシテ都ノ僧都ノ作ト云フ

善導大師像 長二尺弐寸是ハ自作ノ像ト舎利ノ像トヲ安置セル神龕ノ筆ト云フ

神變不思議佛舎利 堂内ノ安置ニシテ唐物ナリ舎利ハ其金ヲ以テ義山上人ノ記アリ

○**大方丈** 東西十七間半南北十三間

佛間 阿弥陀尊ノ立像ニシテ安阿弥快慶ノ作ト云フ

拝間 金張付松ニ鶴ノ極彩色ノ画ハ狩野土佐光信ノ筆ナリ

上段 金張付中央ニ瀑布見李白ノ極彩色画ニシテ前ニ同シ

中段 画ハ鉄拐仙人ニシテ張果老ト同シ筆ハ前ニ下段ニ記ス

菊間 狩野興意法橋定信筆ナリ

鶴間 金張付松ニ鶴ノ極彩色画ニシテ狩野尚信ノ筆ナリ

梅間 狩野興意法橋定信筆ナリ

鷺間 金張付梅ニ鷺ノ極彩色画ニシテ狩野尚信ノ筆ナリ

教間 金張付柳ニ燕ノ極彩色画ニシテ狩野興意法橋定信ノ筆ナリ

鐘楼 本堂ノ東南ニアリ方四間反屋延宝六年十二月十五日供養アリ

○**鐘** 高一丈八寸五分九厘ニシテ銘六字名號霊巌上人ノ筆ナリ寛永年中ニ鋳ル

輪藏 本堂ノ東ニアリ開山ノ安置ニシテ上段ニ釋迦ノ像ヲ安置セリ

坐禅石 大方丈ノ庭ニアリ昔慈鎮和尚ノ石ト云フ坐禅ノ形ニ似タリ

洪鐘 高一丈八寸五分九厘ニシテ銘六字名號霊巌上人ノ筆ナリ寛永年中ニ鋳ル

鎮守八幡宮 相殿ニ天照大神ヲ祭ル儀誉僧正ノ勧請ニシテ愛宕弁財天ヲ祀ル舊誉上人ノ勧請ニシテ都テ七社ノ宮守ノ居所ヲ真葛庵トイフ

○**山門** 三門ハ空門無相門無作門ヲ以テ三門ト書ク延宝七年代地アリテ造建アリ寺號ヲ寄附シ玉フ

長五尺脇士ハ善財童子須達長者

及ビ十六羅漢アリ

下乗 石敷藤木甲斐ノ守徒然坊ノ日退凡下乗ノ卒都婆外ニアリ

勅馬場 山門ノ傍ノ坂ヲ通リテ舊ハ江州膳所ノ城主本多康将ノ屋敷ノ前ヲ退凡アリ

鉄盤石 山門ノ下ニアリ傍ニ紙園ノ社領ノ寄附ノ定信ノ筆

阿弥陀堂 本尊阿弥陀佛坐像ニシテ春日佛師誓文會誓主勲ノ作ト云フ

古墳 山門ノ上ニアリ舊ハ東ノ方ニ又ニ三ノ古墳アリシトアリ

墓 開山上人ノ墓ニシテ法會祝修ヲ営ム

本堂廻櫻樹　淀の城主永井信濃守
尚政ぢんな植ゆ

○元祖御廟　東の山上にあり　賜蓮堂にふづく　山名我山　法然上人傳記に曰
上人平往生の傳　建久九年二月十四日の夜一人の女房ありて一人の老僧
ありていまこゝに來迎せさせ給へりと告ぐ　上人の曰　我いまだ浄土の
業因を知らず　いかでか往生の素懐を遂げんと　女房の曰　上人の念佛
三昧日ごろ積もりぬれば　決定往生うたがひなしと　上人の曰　我
いまだ三昧の境にいらず　いかでか決定往生の思ひをなさんと　女房
の曰　上人の三昧は　我ら凡夫の知るところにあらず　上人の念佛
三昧は　十方の諸佛讃嘆したまふところなり　いかでか往生うたがひ
あらんと　上人の曰　我往生うたがひなしと　女房の曰　往生うたがひ
なし

歌仙堂

別室ヲ観世音ヲ安置ス金銅佛長ケ又ケ分計之ヒ堂ノ名ヲ歌仙堂トシテ公ニ
門ヲ入テ書畫ヲ善ヲ名ノ舞名字ノ貸成トシテ大雅堂トシテ今ノ
古ヘ靈ヲ祀テ天哉翁長崎子ノ
ヲノ坊ヲ
歌仙堂ノ雀躅ヲ
ノ尾氏ト
西陣ト
ふみ
ヲ宿坊ノ
故里山畫鷺大雛神
池貸成歿矣。既表墓焉而未有銘也以爲請。余嘗觀貸成爲人
蕭散不以寵辱驚志善與物和而不苟合。紆志外疎放而内實

修檢與人交謙損而不阿簡於禮法當往不任當否不顧
諸義未嘗有所失恵而弗望廉而弗劇其於取予恬淡如
也平生行事多出於人之所不意於是有畸人之目焉貸成生
平幼而類異學文學書無不能而獨長於繪事圖山水尤妙
好遊名岳尤遍健高峻幽奥無不臻極即取以爲毫端趣數登
富士而毎異其路因作富士圖一百各變狀態皆其所經覽古
今畫工所未及也安永丙申四月十三日病卒于舊原卿堂距
生享保癸卯五月四日得年五十有四葬于舟岡之南淨光寺
先塋之側貸成名無名始名勤遠近皆以大雅堂稱之妻玉瀾
姓德山間靖不飾能配夫之行亦能畫有名無子家絶悲夫世
皆知大雅之畫而不知其行知其行而不知其心故爲叙其大
略如其世則有焉爲不待論也銘曰

若人胡不壽若人胡無嗣

淡海竺常撰
韓天壽書

雪ふらば梢ふとめてあともとうん夜のあるじの春昇しまく　梶

小梶乃翁を訪て二百合といふ女あり（まえ）共に東武より来て漂流して真葛原（まくずはら）に
築店（いえ）ゐ（を）ふ（う）（ゑ）（ひ）（ら）（く）（ら）（ひ）（ら）（ら）（ら

芭蕉堂

大雅堂

東大谷門前

東漸寺

大雅堂

又ある日殿参しくる何まち女ふ遊可とて
獨ゝさまよりやうしのうへをのおんよろこひふかき薇勝坂
絡ゝて給ふくるしうん仕人もこゝせのさ
うふくろ会ひむのしゝえはくとの花を送りて
去首葉のをしあせをよやゝおひ親のやうれひぬさ　百合
はくゝ花魚うはろそいおゝへのまのはうろ白ふゝゝ　遊可

畫士峰十二軸　貨成の冬おて各畳時　石類器　長嘯子の持物之霊山ゟ
の愛蘇文雅堂ゟ雅堂ゟ

芭蕉堂雙林寺の境内西行庵　真葛岬　初ゟ葛軍
山家集　菴室ふはくりそみくふ綿と　居あるころ
　　笹の庵ときくに縁しき名ふれし
小文庫　はゝくふをゝ久ふをゝ僧をろそ
　　よゝせのやうゝふ名集ふのをゝまてろいうるほ
　　行居あやと先をの坊形ゟくゝれえ
　　床乃ゟれ月やをのまくあこゝぐ坊　こを板

芭蕉翁肖像ゟふ安亜た本像八寸計仏彩像ハこを板の翁の愛しゆゝ櫻樹乃
きさみのひ大津の智那尼とゝふ尼ゝ人ふふふゝをれふ智月の促者宗
あり一板高圓金屋長のをゝふ真後富山醫生橋氏といふ人ゟれとゝて射と共ふ佛ま
ゝう「歌石加賀の金沢のお良ゟ方へさろろゝゝ仏をゟへ今のお化庵の門

人おろゆ人亡命の後遺言ふゟお化房の許ふ遷しくゝ老ふ芭蕉翁乃ふ
か句を墓そてもふとを板堂をゝとうくふ
もしの發句の謂ふよろて名つけしゝ家ゟんすゝ
　　康為命ゟ
　　ゝ
　　ゝ
　　ゝ

祇園女御を申す 中略 今の蓮華院と申ハ彼祇園女御の住所の跡ある
東鑑云鳥羽院の御寵愛祇園女御ハ源仲宗が妻ぞと後世迄云白河院御代の女人
祇園女御と申ハ加茂の社司重助が女にて加茂女御とも申すとぞ
就鷲尾 高臺寺の山號 就鷲峯山として
細川藩元の寄進にて村菴爰に老ひ
公ふ滅ぶ岩栖院の号ハ今南禅寺の内にあり
文永元年当鷲の尾ふもとに移し 附
續古 あかりせぬ事ふる人袖ぬれし代々の昔の花れ下風 左大臣天皇
雲居寺旧蹟 拾芥抄云祇園の南花園の向といふ 按るに今ある墓る下燈の地
著聞集云ふる神祇伯親定仔細ハ花園へ〻橋寺を居寺ハ應仁のころ
請じて供養ぜどけて真布施みそなハし居寺をハ遷事せざるまゝ
九月尽のころ後宴ふ歌合しけるふ
千載 唐衣ふたへやふる人の心ぞ色ハ 贍西上人
贍西上人雲居寺の極楽堂ふ坐
おはしけるふよめる
旧 いさよふる波ふ我こそ西ひむきまつ共せじと思ひ入ぬる 祝仲
をむ月をみてのみふ泳まそやふる近年さゝ迄を帰自画細敷の相ありを開
天滿宮 高臺寺の鎮守之初ハ上壇の地ふあり
北政所高臺院殿乃時寄附ありし物の卿 祝部宿禰定業
飛鄉ふ画式ふ生ぞう

泰山府君 樊の名之雙林寺のふもと山東郷寺の庭ふあり 撥画成範卿花の盛を天命
へ祈るとて撥をかくなをし給ふ銘しるせり 祝て世ふ名高し
洛東の住境にて撥をうり知恩院の樺撥の変色みて世ふ名高し
新古今 花もみぢ人をハをしふ山ふそ心ほそく成
なり 恋の歌ふ
山王社 祇園鳥居の西ふあり 撥ふ似たる故ふ捨山王といふ 内裏へ
強訴の時神輿を振て捨置一ふ
日吉の神輿感神院ふおかれ給ふ
玉葉 神代いふ都の風小指移てそらやうる志賀の古ごえ 前大僧正忠源
疫神社 祇園西門の外北の町ふあり 疫神諡曰準藏貴所をまつるとぞ
ふえ社所ハ文覚法印行道
蓮華院旧蹟 祇園女御の東大谷のまゝ祇園
盛衰記云感神院行幸の御時
祇園の西大門の大路の小家ふ女のあやしたる御輿舁すゑ
御ふ有ぐしぐ還御の後ハの女ど宮中ふ召されてほの小玉體ふ迎を進らせぐる
祇園社の巽ふ當ぐ御所を造て居らるゝ公卿殿上人重を合ひ奉て

高臺寺
萩の花

西行法師宮城野の
萩と題して詠め尚ふまり
其萩今ふ初つゝ
を草庵ふうつしう
侍し花の比其園の
人さそひ侍しふ
あけさも
庭ともに
うゑた甲
萩の花

宗祇



小萩ちる
中そらの
小貝
こゝろづく



高臺寺方丈　秀吉公朝鮮征伐しもひて陣歌陣の襖繪應に設ふるしを
さふ憑を中間に移して仙人の画東西八字溪の画ふり
隨求尊　旧所安置秀吉公の千躰佛
念持佛ふり
小方丈　上段の光明皇后乃白菊の屏風
花を畫くもしふ永徳の筆
紅白乃梅を画く是古法眼元信れ筆之傳右行幸の圖乃屏風ハ土佐光信乃
画ふり又古法眼の画ハ四季の松花右の屏風ふり
小書院　採幽の画みて雪中の図之ハ次の間ふる小協
風吹柳を図して古法眼之筆
秀吉公影像　旧所安置秀吉公の念持佛ふり
贈號豊國大明神
政所公影像　旧所安置秀吉公の念持佛ふり
菊潭水　潭ハ舎の前の安閑崑山上ふる小協
従一位湖月禅定尼寛永元年九月六日薨去
擔塔　山上ふる豊臣若狭守勝俊世
捧て具先ハ尾州乃人之秀吉公姻家の少ふ早く拾遺放拜し累て羽林次
将ふり若狭國ふ封せらふれ共放逐て具名放除
たり下居ふる事九二十余年遥ふ慶安二年六月十五日卒を遺詞ふよりて
高臺寺山上ふ葬ハ
抑當寺ハ政所公の御本願ふて慶長の院の御草創之方丈書院潭舎中
門等乃多ハ政所公乃殿舎をふくいふ
高臺寺十境　白山巔　菊潭水　岸栖洞　蟠蛇池　湖月堂
安閑窟　相呼墳　雙林溪　祇園林　長樂鐘
崇徳馬場　古ハ崇徳院宮安井光堂の北ふ在ふり
廢して鳥居ハ東面ふ立って下ふ在ふる事ハ
馬場ふて應仁記ふ粟田口ふハ
長樂寺老堂崇徳院ト云ふ
桂橋寺　旧地詳ふ
仲源寺ふ在ふり下の原ふあり
霊山寺　霊山國阿堂の南ふあり見聞隨身抄ふ
日本略記ふ覚弘元年三月八日霊山寺供養
本尊阿弥陀佛　恵心の作立像二尺八寸
黒谷上人傳ふ云ふ久二年正月一日より霊山寺ふて別時念佛
北霊山寺南霊山寺の二ヶ寺ふる中原氏乃寺ふて尚潮昌代々乃墳屋ふる
舉白堂舊跡　霊山惣門の外むりの上壇の地之是長講堂乃所ふ
舉白集ふ撰しふる故ふ名く
舉白堂のまへうる楓坂
年へたる宿もさくらのおもかげ
ふるふるねんねんさくらさくらかな
旧　見ちがへる程面の面の髪の霜
東山山家記勝俊
しんくこふの禁霊ふて
まんふ谷ふり長嘯楼ふたる行ふて百さくらあるを
寄亭歌仙堂


信徳
花の
林の面


半時庵
洒々
月夜の
浪の底
ふかき
風味
乃
面

たくさくまるの待受と名つく 詳ニ見ユ
そら橋をつくり松洞堂ふのくまで
羅山文集 春日奉詣長 八坂東 在霊山建松洞墨。歌仙堂 待心鳥羽観 挙白堂
我来竹
長嘯軒東 この山ふもとのまつをよ
挙集 庵の面ふとのまつをよ
ろ品かお霊とのふれゆ
延とさくらまさくしに
森集 吹とくる雪れ志うくこかあ
活所遺稿 歎挙白堂 路入東山七月寒 佳人世外坐雲端
一盃挙白堂前水 便是仙家承露盤

山乃井 顕注蜜勘云東ふ霊ふのかくらふふこの井寺ふ
今詳 詳ニ云フ云ふ井寺ふ
日よう十講を始らまふ三日五部の大乗経入道殿乃御筆ふ依て
井寺ふ渡さふ御預ふうとそ
さくらふの日記ふ四月つこうふ
おとこまうてておふこそまうふ
ほくのそこのねのあたおやゆ
むくこれてさのあそむ
家集 又後頽髄脳詞書曰 昔さうふ
ふの井れふこまの
とふくひふ
みさとふさくんこぬ人のふ

赤波島

藻蟲菴旧趾 霊ふのかくうあくんふ今詳ふ云フ法ふ洛ふ浴ふ小野濱妙光寺の四ふ
挙白集 ふ心藻典房ふそふくひふまふうふる依よそはうふる
おのの乃藻ふ住虫の隠まあふ向ぬふ依て
鼠堂屋敷 土人云ふ二年坂の下路の東坂ふよふ小竹ふ塚ふいふ人ある伝詳ふ云
盛衰記曰 前廐ふ鑒の昔して一ッのるそれてうふる殿よふ人やある
出て掘ふよと仰らる花瓶門佐平清盛まふ有て宝青もとえておやうふる所ふ山ふ馬
て神の四ふ死入てくり即取進らもうふれ坂書記ふ老ふる毛ふうふ足岸
乃唐名ふそふて南臺の竹をめ
の時ハ勅使をえて宣命ふ依合らる
経書堂 二年坂乃上ふあり聖徳太子ふ
挙白集 依障剣ありしふり具後小石坂駅めて道俗男女ふ法華経坂書しめ自
依解脱の因依
接ゆふ所ふり
姫堂 経書堂ふ東ふあり金性院ふ号ふ云ふ
運慶の作初ハ八幡ふ系の像坂安ふ坐像二尺計
大日堂 俗七天計 経書堂乃東ふあり真福寺ふ号ふ云ふ
いふへ車寄馬止の 初ハ富ふ像坂安ふ坐像二尺計
ありし所ふそ 輪蔵 堂内ふあり真盛上人蔵経の上巻一巻ふ依救め
仲光院 大日堂の南ふあり本尊愛染明王坂安ふ
公の位仲光入道之ふ 仲光院の小ふあり時
寶徳寺 宗ふ云ふ寿ふ
地蔵院 馬止の側ふあり本尊阿弥陀仏坐像二尺計 相好無倫ふ
初ハ姫心尼の持尊之ふ 如意輪観ふ云ふ日の作ふ
没後ふそふ迁ふ洛陽巡りの第十番ふり

清水寺

仁王門

清水寺

大日堂

音羽の井

阿弥陀堂

三年坂

八坂の塔

清水
二年坂

経堂

経堂

三年坂

松原通

清水隨求堂　清水寺西門の内にあり本尊隨求菩薩天竺佛彌佛の脇士の多門吉祥の二天を左右に侍らす寛保の初盛松阿闍梨の建立之を轉橋　田村堂のおもあり実は橋ふあらず実の溪としていまだ至らは道ありては溪川ふ架を橋ふあらず著風葉ふも足へくらり所謂長棲橋も是ならん

尾振谷　清水の西清閑寺の南東西ふ通ずる谷ふり清水寺境内寂静室の中ふあり

南藏院　龍のすふあり本尊虚空藏菩薩ふ聖徳太子の作ふして主膳司と号に皇后の妃主膳司を乃母阿比丘尼乃草創之後世ふて比丘尼ふ所ふ鮑貝の硯谷ありて称客其大器ふく酒盛一息中ふ飲そろふの故ふ此硯巻の名を深瀬と酒ふ象して深く遊ふの謂ならん

九重丹楓　清閑寺高倉院帝陵の側ふあり紅葉殊愛しまつ平家物語ふ見へくらり　後西院の作製叢筆のおふ清閑寺ふあり

此老木ふ殊ふ殊愛して

うたふ旁のさまふこのおもかげをやうねそれとみてとり　御製表

秋葉社　旧所山上ふあり高倉院お幸殊愛しまつふ秋の龍田ふより奉むつして杖を深る神といふ世俗獅子口ふ獅子口ふ秋葉ふ三尺坊とそふへ謬るり

要石　當寺落慶の度ふありし石上より覚明水ふ者る数珠の下ふあり古へ高倉院の勅ふ仰ふて洛陽の善戸を足ひ扉を数ふ造ふ三千坊の内ふり大なる坊覚明世を遁とてそふ住しならん

六條院陵　帝陵記云東ふ清閑寺ふ洛清しきる所足六條院の御墓所ふまた今後邦綱卿乃清閑寺の小堂ふ二年七月十七日新院崩御ふ十四日新院高倉ふ崩御ふ十三日乙丑東ふの皇子旧ふ三日乙丑東ふの多ふ葬ふ奉ふ

花のにこの院傍ふ清閑寺ふ詳ふ掘記云治承五年正月

めでて後朝花とふ事数よみおし

後京極

ふさとふ知ある色もひとつふそ　松阿

延年寺辻子　清水寺六坊の側より西大谷ふ至る細道ふ辻道の南ふ谷ふそれを延年寺谷といふ慨歎抄曰建仁二年七月十六日五条の東鑑曰建仁二年七月十六日五条の河原ふ於て播磨守頼全放窺ひさま放誅戮せらる盛衰記云清水寺合戦ふ今ハ防ぐ我ふ力ふく赤条他延年ふもニつの岡道へそ落行ける本願寺傳記云東ふの西の獅子のあれ延仁寺ふ葬しなるそ忌拂ふる親鸞聖人沸葬送の時ふ当る俗称しく仁と謂俗へそんん歟寺町坂ケン子ふ町といふが如し

日親廟塔　真筆の題目塔坂悔生ふ今ふ在り

二年九月十七日八十二ふて寂ふ世ふ鍋冠日親と号ふ

通妙寺　日所ふあり法華宗妙徳山ふ属ふ開基日惣上人寛永年中ふ草創を延年妙見堂坂建る


開山堂
本堂
末社
日枝神社
日枝社
庫裏
庫門


鳥
遣
山
本
寿
寺
妙見堂
日親上人
拝所
表門

後京極良經公塔　鳥辺山要法寺墓所ふ至ハ道の右岸の上ふあり後京極攝政良經公之墓と鐫る鳥石の筆

藤原良經公之墓在干洛東要法寺而歳月悠邈荊榛荒凉不」可」復識也享保年中盛河生奉」大樹鼎命脩」治墳墓新立」標石」祭以」香酹且賦詩蔵干其寺」住持日慈感翁之志請」書其事」予於是識赤水藤原岳尚撰蒲野谷豊書

法國寺　五條大谷ふあり時宗本尊阿弥陀佛ハ安阿弥の作立像二尺八寸

額曰善伽藍者江州小郡濱井綾部字息女亞相秀頼母公為二世安樂建立也云々本堂ハ大佛殿建立之時ハ寺領ハ百石ありしと云ふ今ハ僅ふ十石ふ減ず

院の殿舎破壊者附」之

岱中庵　旧所南方ふあり本尊阿弥陀佛恵心作坐像二尺八寸計ハ聖観音ハ東ふ向ひ給ふ小安堂ハ南ふ向ひ給ふ人張子作ありと云ふ

人張子作ありと云ふ

慈眼山本食養寺上人　姓ハ村上氏駿州の人ふて人参ふ精通ありしふ依て人参上人と呼ふ

驛路の行人牛馬の苦辛を癒しさをやすらふ日岡峠ふ谷峠ふ九丁程ふて坂路の嶮しさをやすらふ不易の勤功坂積ふ云ふ因幡堂乃石橋

七條八町畷の二筒ふ石橋　御所八幡乃数石炉の井ハ其外橋を架し道を修ふ来ハ上人一生涯の中ふなしぐあり足ふ至ハ道乃ふ当ハ持宿寺ハ西本願寺寂如上人ハ光祥中乃建立之本食上人ハ光祥中ふ退隠して終をとれり

西光寺　安祥寺の小松ふ通の南側ふあり

ふありて空也寺と号ハ大雲院ふ属を初ハ仁科東野村二年今の地へ移を

空也上人廟　本堂の小ふあり中ふ石碑を立ツ撰者ハ美濃高泉和尚ありふ石碑を立ツ撰者ハ美濃高泉和尚ありふ

聖観音　空也上人の作本堂小の脇檀ふ安置ふ

産神祠乃為ふハ杉ふ

六字名號　空也上人の筆一生涯ふ唱ふ給ふ真一幅ありふ

新撰　まの家をよそなる

遍ふの舟ふ乗ふ乗ふ遅ふやそくさりとも　空也上人

阿佛家　六波羅蜜寺のひがし南側ふあり世人阿佛屋敷と云ふ

前栽ふ小祠ありふ

うゑおきしひとはぬたりみくさをもそくさりとも

西福寺　六波羅蜜寺の門ふあり浄土宗本尊阿弥陀佛ハ恵日の作坐像二尺計

四十八願所巡りの廿一番之札所ふて弘法大師の作ふ為ふ安置ふ弘安年中ふ当世ふ尚玉の像ふてハ無之古ハ多宝塔ふ安置ふ

焔广堂　旧所ふ例ふあり小野篁の作世ふ尚玉の像ふてハ無之古ハ多宝塔ふ安置ふ

入口ありふ仏ふ通ふといふ焔广堂ハ百練抄ふも見へたり

六道迎鐘　瑞皇寺ふあり毎年七月九日十日平家盆會の生ける諸人ふ撞しめ聖霊迎
接と称そ山陸ふ慶俊僧都ふて堀出を石ねうし寺傍ふ納して堀出し撞
法師二箇年一放待ひして堀出し撞
僧都大ふ悪しして曰く我人の撞さよと宣ひる俗の
古事談或ふ今昔物語ふも見へたり今も仕撞ふ響く年化
並びふし希代の靈鐘なり
今昔物語ふ干阿盒の日まいしき女の祖の
盆ふ入道ふて愛宕の寺ふ撞参らせんを
拝ミ泣く去ふ久うふ人あやしうそ
かくそ書さるそ久

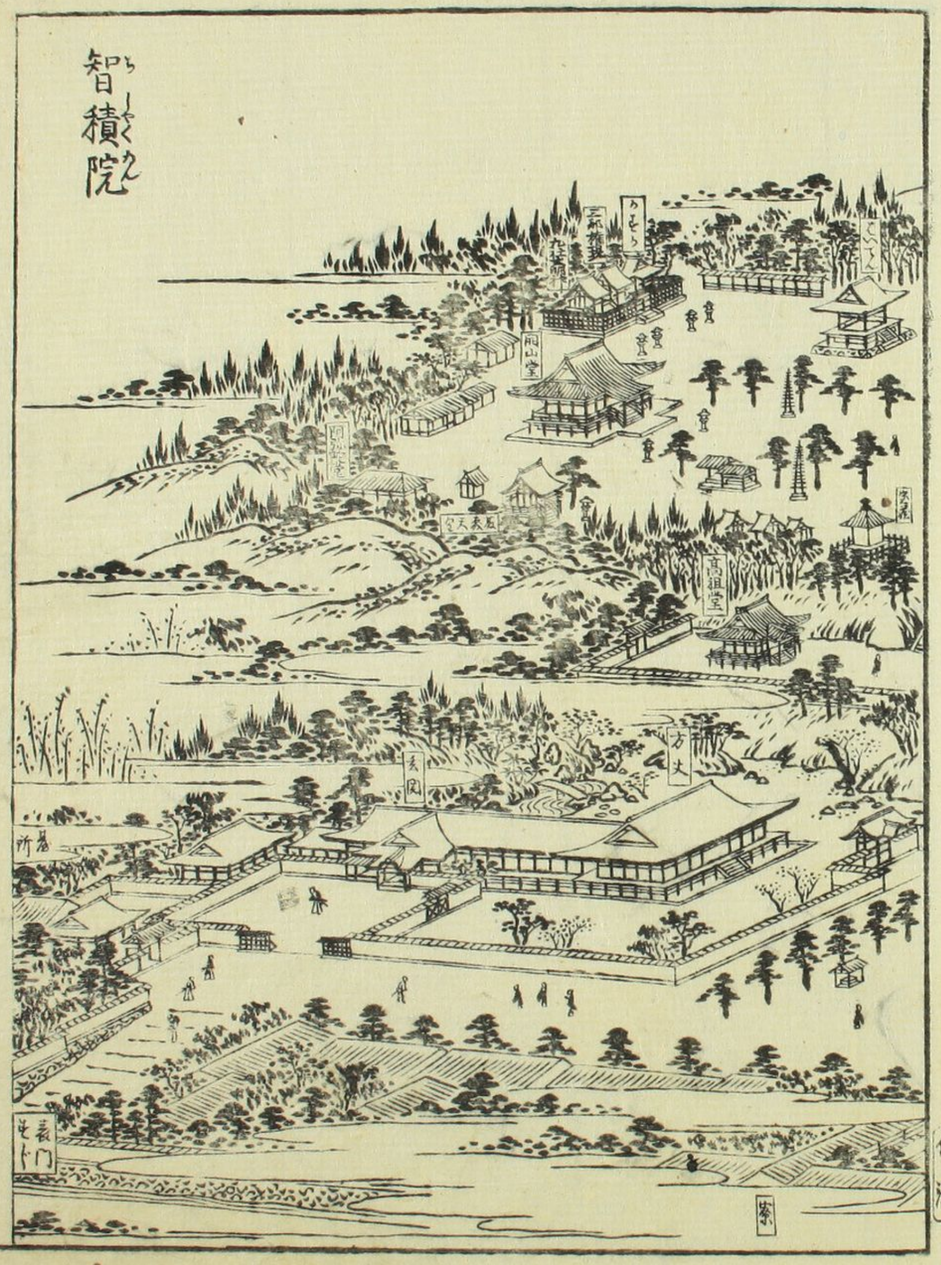
ゐてまいる墓のうへ乃春そうまき

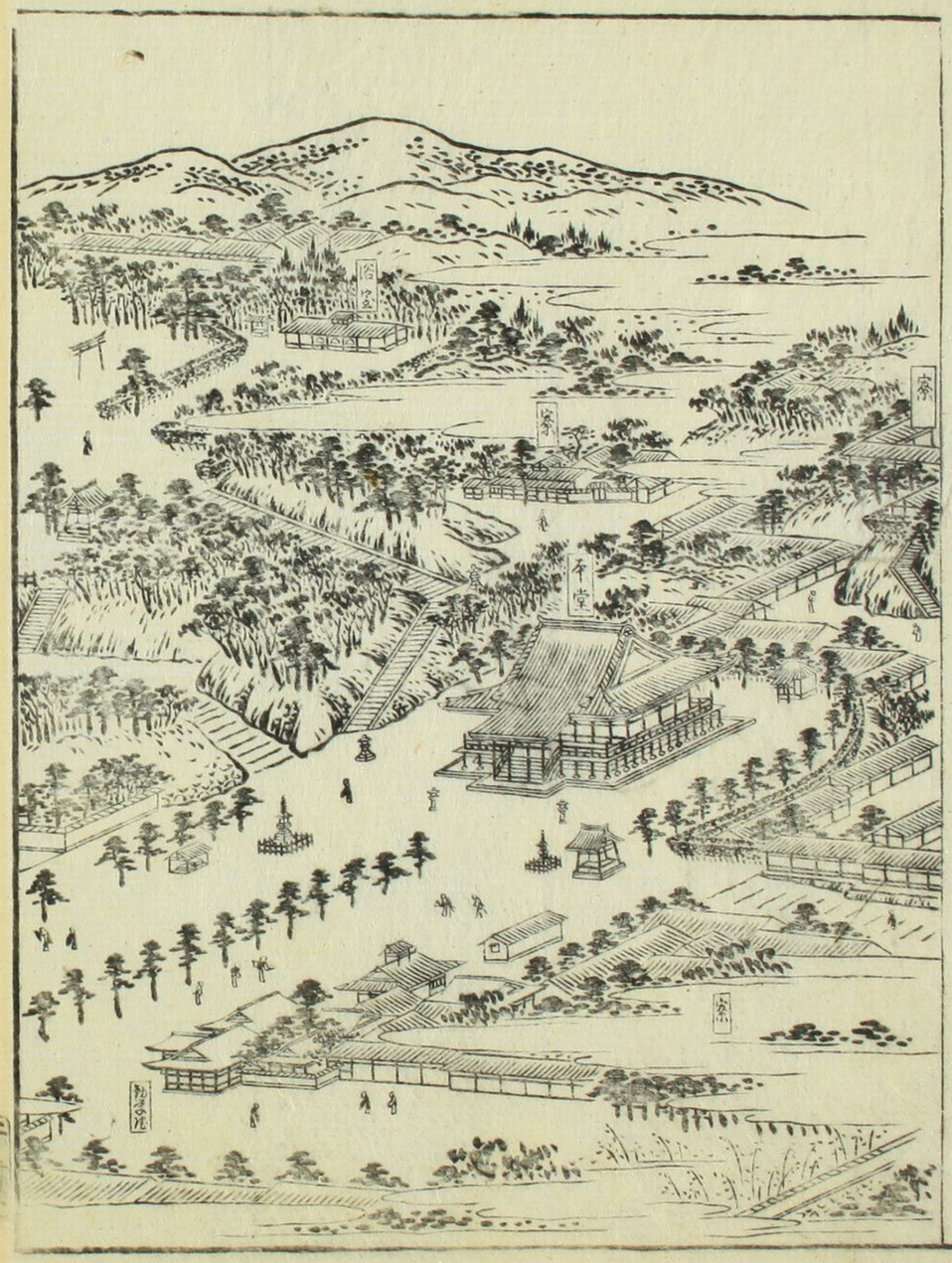
城東寺　建仁寺町松原乃南ふあり本尊
應仁の乱ふ焼ける像破壊して
今ま大六乃像ふし小堂ふあり初ハ
南禅寺楞厳院の塔頭所とある

平教盛卿家　前編ふ見へさう
平家物語ふ宰相教盛とやふ入道相國の門脇乃宰相とそやふ
むつれい門脇の宰相とそやふ
上行寺　五條建仁寺町乃東ふあり法義宗開基の日秀上人本願ハ織田左京
助信定慶長十六年の建立之初ハ比叡山ふ住し日経上人化宗と法論
し騒動ふ及ふ足ふよりて公儀よりふ
人と共ふ六條河原ふ於て磔ふ処ふ
故ふ創寺とふ云ふ

元和元年十二月ふ坂水尾院の緣有
石清水八幡宮ふ移ふ
牢岸　若宮八幡の南音羽川の岸をふ
今牢谷とふ云ふ比地ふ數石あり
專定寺　大佛お少側ふあり淨土宗本
六万躰彫刻の四絵のるる
獅子地藏　小野篁の化え跡の比
ある時吾妻の方へ赴くふ
時比所ふる獅子と化し通ふ命を
そもよう世乃人獅子の地藏と呼
飯宮　新熊野の南林の中ふあり
白山權現象一皇子
雲龍院　泉涌寺の塔中之泉涌水の上
後園融院　後光嚴院　後圓融院二帝の
後小松院の三陵あり當院ハ泉涌寺乃古来の塔頭之開基を
仲嚴律師
来迎院　旧所方丈の小ふあり佛殿の本尊弥陀三尊佛運慶の化ふ又荒神を安
ふた弘法大師の化ふ函院初ハ弘法大師中興ハ智鏡和尚ふり
獨鈷水　荒神社石垣の傍ふあり弘法大師獨鈷
をもて穿ちふ出泉ふ
○當院の智鏡和尚宋ふ入て懇志ある蜀
○信長公大坂乱戦の時甲冑の上ふ着
安楽光院　旧所来迎院の西ふあり本尊阿弥陀佛初メ上京小川上立寶ふあり
誠蓮法師當山再興を寛永年中ふて
住職微玄法師ふり

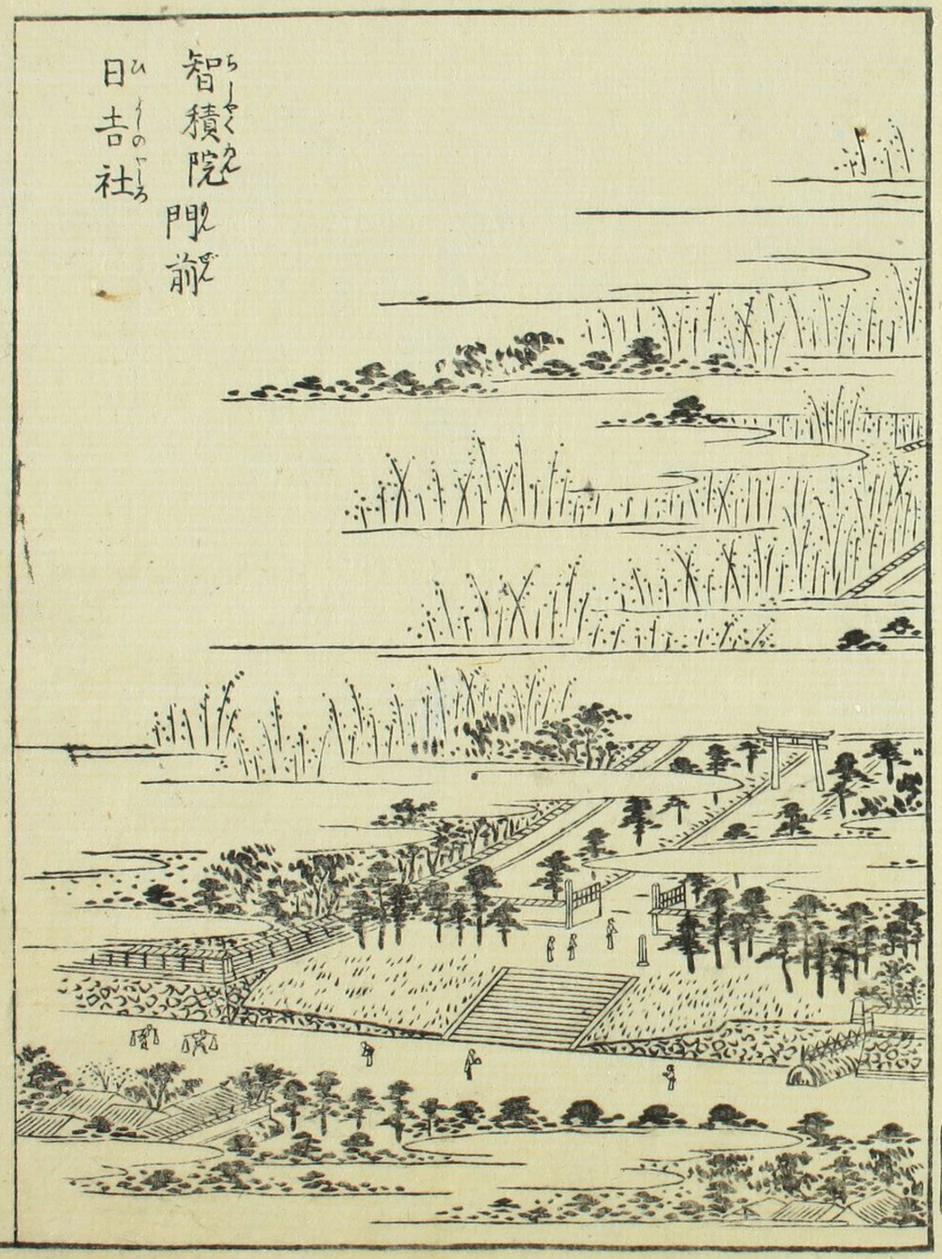
智積院

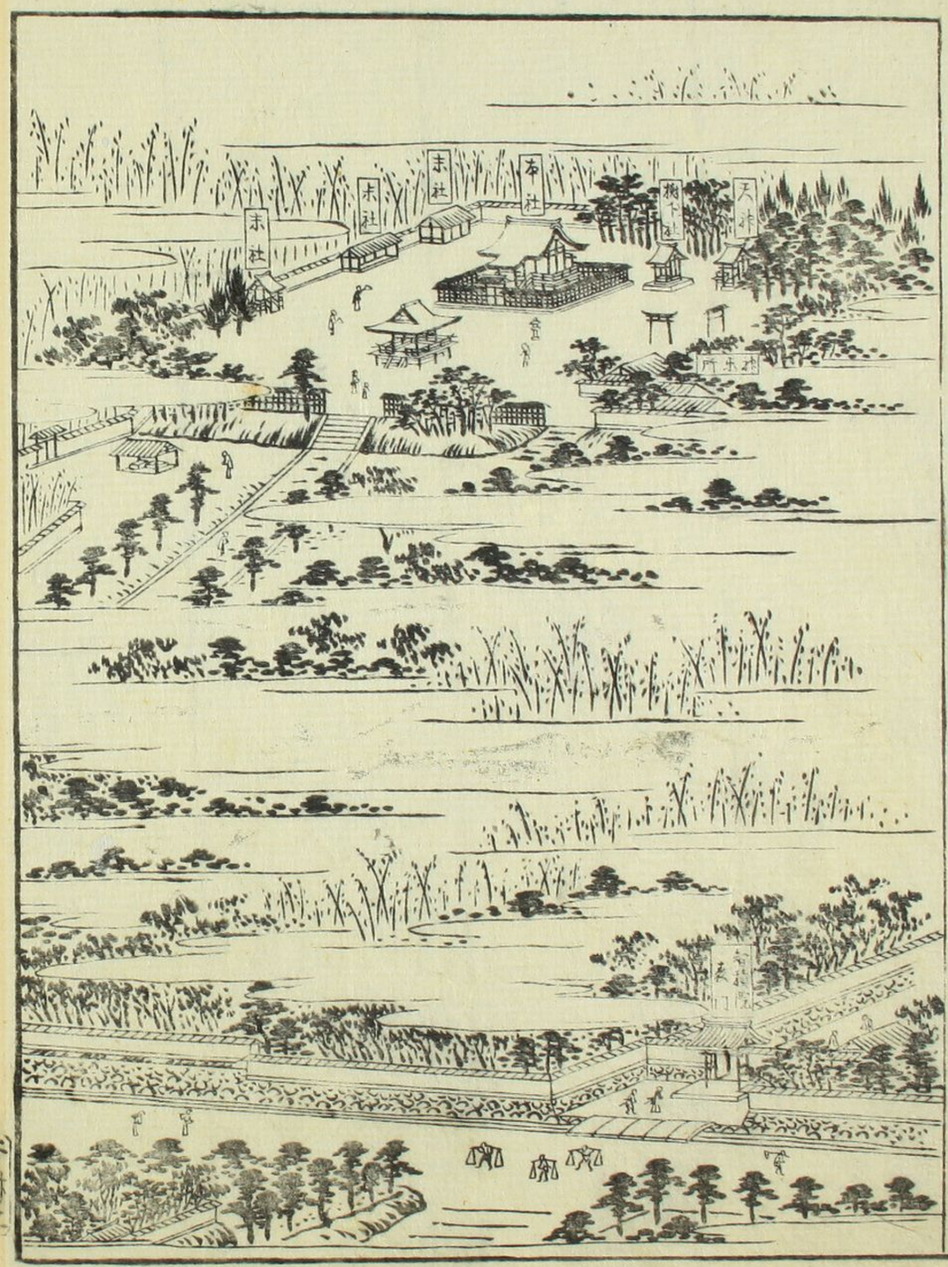




智積院門前

日吉社





観音寺 旧所来迎院の小ふあり本尊十一面観音ハ弘法大師の作立像二尺計脇士左不動明王智證大師の作右毘沙門天運慶乃作當寺第一の霊場にして世人新熊野観音と称し又西國巡礼乃札所観音の一なり

善能寺 旧所観音寺の乾二町ふあり本尊聖観音稲荷大明神稲荷大明神老翁小化して始て此所之立像二尺三寸脇士左稲荷大明神稲荷老翁の像弘法大師の作なり右弘法大師立像二尺計稲荷大明神并乃作なり像共に霊験あらたなる所なり前條ふ是へり

戒光寺 泉涌寺總門の内ふあり本尊釋迦佛立像一丈六尺惣て金色の出現ありて開山雲照律師中興して後世きわめて然上人再興しより如周法師の館迎ゆへんふ此所ふ住しめ玉ひ時遂ふ其矢艶を飾りて平相國入道ふ妻とかせ玉ひの六波羅の館迎ゆへんふ此所ふ住しめ玉ひ時遂ふ其矢艶を飾りて平相國入道ふ妻とかせ玉ひの六波羅

新善光寺 戒光寺の南ふあり本尊阿弥陀佛一光三尊信州善光寺ふ坐ス尊像ふ模して泉涌寺ふ移し奉る後遂ふ帝名一坊ふ勅しく鑄さしめ紫金佛ふ改め初メハ洛陽大宮通一條の小ふあり後世さくふうつる

悲田院 新善光寺の南ふあり本尊阿弥陀佛立像二尺ス計當院ふ安置乞子乃草創之ゑ正帝養老八年ふ鰥寡孤獨の輩及び病者を救ふ爲ふ建ル所ふて其後ハ運慶法橋ふ命して後世きわめて然上人再興しより如周律師中興して後世きわめて然上人再興しより如周法師の館迎ゆへんふ此所ふ住しめ玉ひ時遂ふ其矢艶を飾りて平相國入道ふ妻とかせ玉ひの六波羅

常盤宅地 泉涌寺落橋の小半町計ふあり義朝亡ひて後常盤清水ふ漂泊しゑ玉ふ遷ふ配所ふ赴ク時ふ三人の子乃内一名爰浮橋とかや幻化ふ常の義之源氏物語ふ出世ふ大路橋とかや此之所橋薙戒記ふ出さり

瀧尾社 大祓大語一抔南爪ふあり系社藤杜の属社さり額滝尾社篆字例系六月廿二日

五葉辻 滝尾社の南乃辻をいふ是則いにしへの泉涌寺門前之後中記之仁治三年正月廿五日今夜四條院沸葬礼経五葉辻入御泉涌寺云々

三聖寺 東福寺小門の内ふあり第一門ふ金剛力士の像弘安六年長八尺計運慶乃作ふ霊験の事大方興廃記ふ載を初メハ紫ふる しゑ玉ふ門の中央ふ石ありえ玉ハ獅子の形之乱世ふ破砕ゑ今尚石ふ獅子の跡あり牛弘毫之ものさ来ゑ玉ふ石ふ觸りハ病難災を除

佛殿の額 後正 本尊釋迦佛左迦葉阿難 開山寶覺師像

愛染堂 旧所の西街道の東側ふあり本尊ハ康慶の作之旧所ふ五大尊弘安年度當寺ハ東福寺より初メの建立ふて天台宗ふり

万壽寺 三聖寺の内ふあり九重ふ号ふ初メハ楓口通万里小路ふあり永享六年四條の後ふ北ふうつる五ふの一員之開祖覺空禅師

傾成卿墓 東福寺塔頭南明院ふあり

自然居士塚 東福寺東南の山ふあり或書ふ曰自然居士ハ和泉國日振郡自然田村の産ふり故ふ名と改ル始ハ法相宗ふ学び後禅宗ふ帰依ふて辻ふ居ふして辨生衣聚め説経しゑ玉ふ聖一國師の為ふハ孫弟之東山福寺の龍吟庵ハ大明國師乃本巻之ふ経しゑ歌舞弘ふて其深ふ弘断東くに接ゆしゑ玉ふの古ふ自然居士も勢

西寺古鐘 東福寺ふあり西寺ハ守敏僧都の寺ふあり

海藏院 東福寺塔頭之一老梅の小ふあり流図ハ海藏院ふハ虎関自筆の元亨釋書あり

梅雨
白屋黄梅雨
蕭蕭撫枕寒
南山朝暮色
不作出門看

服元喬





郭公の名所は多けれどのかるゝ

對吉今

さみだれの
月はつまあた
こゑまよ
ふるも
郭公

定家

月輪　東福寺の東より泉涌寺に至る所を云ふ寛公の山荘之月輪右大臣と号ス東福寺四至の文云東ハ月輪殿の地路通を限ると云云
月輪といふ事ハまりてえ捕恵茎ふしく芸ニ庵の花乃
花弧りてあそひよう仮名ふそひもけぬ波そたちぬる　社家
後拾　花の花盛とあれし在れ風ふそひもけぬ波そたちぬる　社家
遺　月輪殿の山荘にて
ゆきの日ふ揉乃宿を尋ゆくと月輪ふくゑをりる　輔親
月輪在所舎ふ名
玉吟　あのぬをよいのふれこのたいえ
光明峯　東福寺方丈の乾月輪乃奥ニあり昔ハ今東福常楽庵の園上ふあり聖一国師年譜ニ建長四年二月廿一日藤丞相道家公薨ぜ年六十七四條院の外祖光明峯寺ふ葬ると云ふ是光明峯入乃お指図の墓所ふそよこ
鉄壇　綸子乃茶れりふをもこ森のくろ
地蔵堂　二聖寺お町ふあり立像八尺計張子の像之迫年造立ス又厨内ニ地蔵尊を安置ス
法性寺旧蹟　拾芥抄ふ曰九條ニ地里乃東ニあり今指ふ九條里乃東ニ当ふ名あり当寺の本願ハ摂政を政大臣従一位忠平公之天暦三年八月八日薨を昭宣公の長男ニて諡號貞信公
法性寺観音　東福寺ふ門のおふあり三面千手観音と安置ス長一寸八歩脇円ふ八辨財天頂ふ二十五面あり仏本ニ非ス邊ハ二宝荒神右邊ハ弁

武部などの方をさしてていふなるべし
なれどなほれの者どもの心ばせにはあらず
姓氏録に稲荷の山のふもとに
と書きて武部あるをもて考へ
極楽寺 同街田中社の南東方にあり本尊阿弥陀佛 鑑真の祇園二天計
脇士 婆利 地蔵尊 添州極楽寺の旧號をうつしあらため再建に
十王堂 門の外南にあり本尊は閻魔王にて十大王 祇安置 弘法大師の掘しめし井あり其水の出をつぎて十王を祀りまふでをなす
稲荷山 花草紙にいふおもしろきを初んしてまいりつくるをもて
壬三集 稲荷山松の落れ明ケの小窓よりかすかに森の聲 家隆
家集 独のみ我越ゆくふ稲荷山まの麓乃立かくれん 景之
稲荷御神詠
續古今 うれしむ人の祈りをそ浮世ふ乃こる三乃の糟
ちれい稲荷大明神の仙をとなん
稲荷坂 新続 稲荷三ツの峯へ詣るの道あり今車坂といふ是いまへ乃
順徳 通り稲荷行幸の車は山道を経るこそ田中社もいまへ山道ふあり
協門集 をそくくる客を出つくる坂のやれ急てくるこそ人う郎 兼昌

異本應仁記云文明二年醍醐山林院の宝院の律師分覚ん八合力せしく衣松
武田相拘へしうえさき見附ふ多賀豊後守高忠う従者骨皮左衛門尉道源
山林ふ楯こもり稲荷山へ步越社勢ね倉出羽守と示し合せ乃社ふ陣と
取る伏見木幡藤森三栖淀竹田多ゐ法性寺ふ落まで目の
下ふ見おろしまるなど
大略郷人降参しく
還坂 足稲荷坂の別名之花山法皇清少納言ふど山道よう二ツの峯へ詣
ふ来旧記ふ分明なり
閑居友云ちころいありのうち坂
しこそおひとほ入道をもて
がこさあくとあくあり
定家卿文書云法性寺傍成乃沖
ひうさうのとそう面への谷をかこうて
かこうてと
扶桑略記云澤蔵貴所稲荷山ふ居して護法形を現して花を採ら衣坂
真言傳云稲荷山僧正覚ハ権僧正壹演行ひ給ひ乃跡あり
社名説云今山間ふ祢座の跡あり
岩あり雷岩とあり
うり之房嵓と所ありいへ
俗房の趾あるん
硯池 本社うらし五町計ふあり
硯の名詳ふあらず
池の面ふりをうつさい稲荷乃沖垣ふ波やろん

〇沢下ハ稲荷山松越て東の麓山科郷ふの
小野勧修ら坂経て花山よりふ

稲荷山

初午の図



南小栗栃
明智光秀
亡滅旧迹
櫃上
本経寺



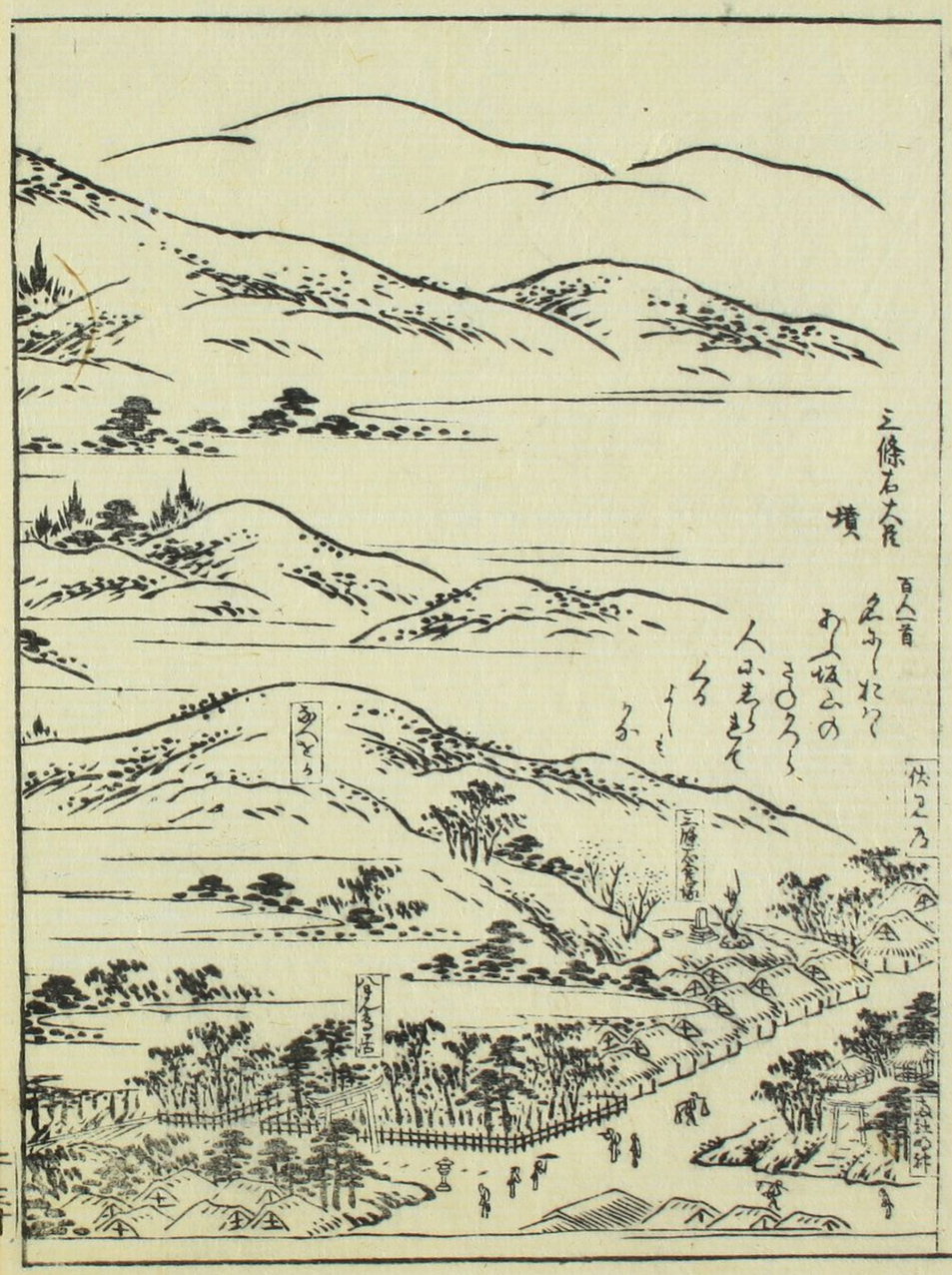

本堂
方丈
位牌堂
七堂伽藍
禅院
僧房
仙人石
若衆
社の明神
鐘楼
客殿
家中
伏屋
下屋敷

伊澤


勧修寺
天女堂
弁天堂
位牌堂
月住石
鐘楼
中門
表門
氷室池
十五勝

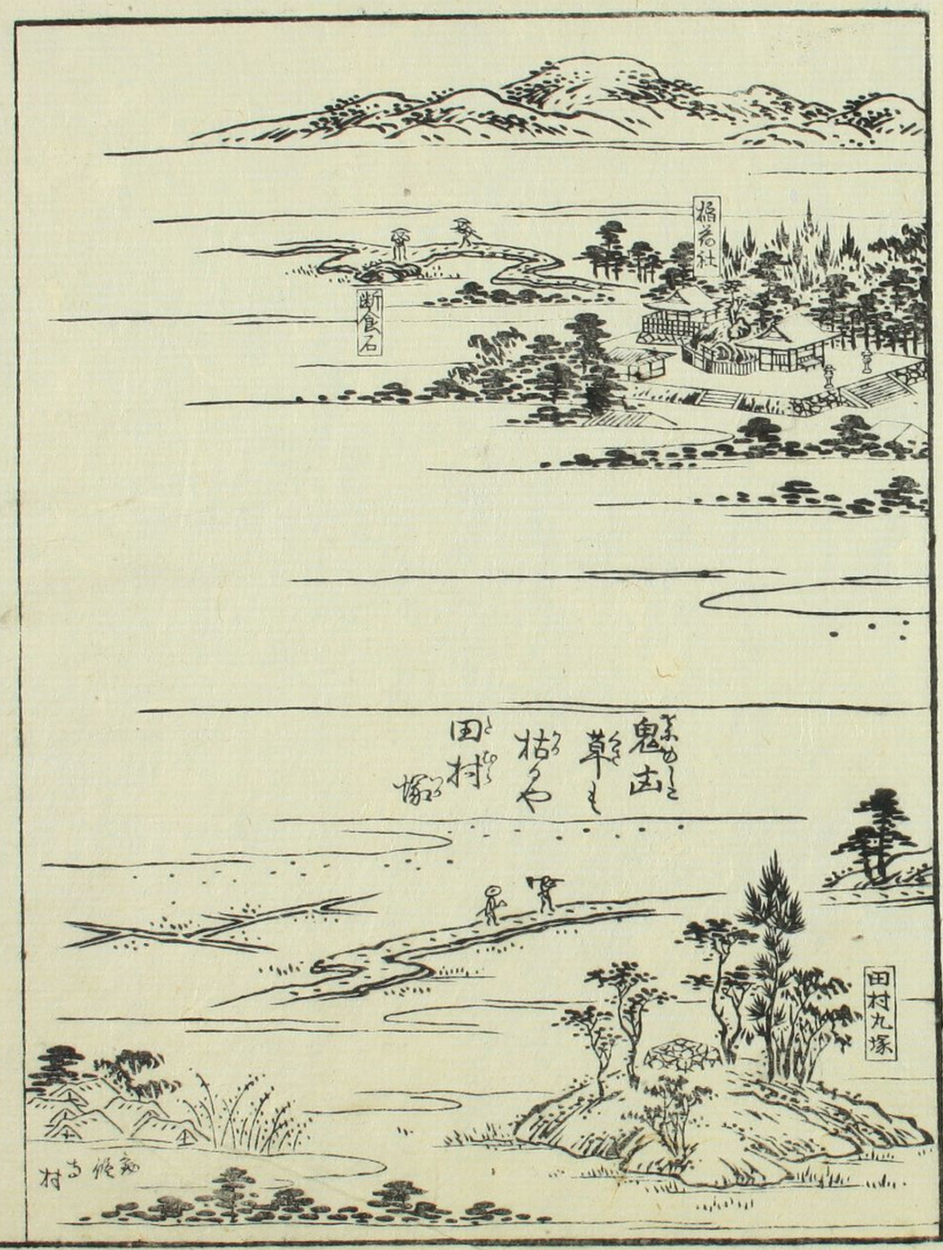
勧修寺 八幡宮


本社
若宮
神木
社司


三條右大臣
墳
百人一首
名にしおはゞ
逢坂山の
さねかづら
人にしられで
くるよしもがな
伏見乃
三條公舊邸
小野篁墓
六地蔵

花山稲荷社
良雄断食石
栗栖野
田村将軍墳





巖屋明神社

山科西の山小村なる居の額巖屋大明神石野宰相基顕卿の筆社記曰系神宮道祖神寛平十年の勅請なり人生れ出ると同時に側に九月十日産基断絶乃ち邸宅居に當村市川氏の家着ゐ大石の遺趾あり

大石屋鋪

岩屋明神のある居のまゝ小倉村大石内蔵允良雄淀の家

近年碑銘を建つ其文曰

是故赤穂侯重臣大石良雄所假屋之處也如其忠精光誥既傳而贈爵人口不復贅焉嗚呼百載之下非人与骨皆已朽矣雖則非人憑々如有生氣豈非其忠精所激名聲永朽者乎今也鐫石以誌焉願當后之過此者乃有涕以従焉矣銘曰焦心飲膽薄言潛銃死而不死名姓永光建石者爲誰武府人孫八宮部義正同所恵五郎上田正並書之者爲誰伏水人龍公美子玉也干時安永四年乙未冬

田村塵墳

栗栖野村の西勅使の道の傍に

東一町許ありて

二男ありて嵯峨天皇弘仁元年正五位叙し中納言に任じ同年九月正大納言兼右大將に任ぜられ同二年五月廿三日薨ず年五十九贈正一位勅して綸旨を給ふ調布一百段商布四百九十端茶七十斛延喜式出

桓武帝第八の皇子葛井親王の妹全子女御の誕生にして

所之天皇政を聽給ふ事一日同五月廿七日贈従二位の宣命を給ふ日と嵯峨宇治郡栗栖野に葬ぶりて甲冑兵杖劔弓箭糒鹽等を調て合葬せり王城に向ひ埋もれて突と両後國家の非常天下に災害ある時は

塚の内鼓を打ち鳴しあるひは雷電の如し

寸胸乃至二寸向ふ疵ある如し背に

髪際に黄金の線を引き重ねる如し重ねる時二百一行輕重なく行と怒ると則猛獣も忽斃る

輕重なく行と怒ると則猛獣も忽斃る笑ふが如くそして常に紅之到節性を持ひ松名冬を送て獨翠武術は世に稀なる勇

成人に踰ること中華の文を学で張良が武略蕭何が仁智を兼ふ或曰坂上田村麿は毘沙門天の化身にして國家を擁護しふとそ聞し

野邑山

小野の南にあり小野小町年老てはかなくふとそ

著聞集曰

小野小町若くて逸をしくふとそ

いつきの小宮に皇五帝の妃も漢王周公の妻もまだ玄ふを絢繍の多くいそをそ

をうゑしロふれ衣を泳して多乃男女賤くのそひらず女帳后ふんを

けうしうしる十九にて父ふをうれサ一みそ母ふうしる十三ふ歳をさしそしらひ

きいみしうろそひもうとくのそうろ

仏をうけうるそろひもうとくのそうろ

そこのあまとてよもぎふいろ

蓼の摘み

山科大石古蹟

題大石氏故居

忠精聞天久
英風今尚存
月明清露耀
此夕似招魂



巖屋大明神



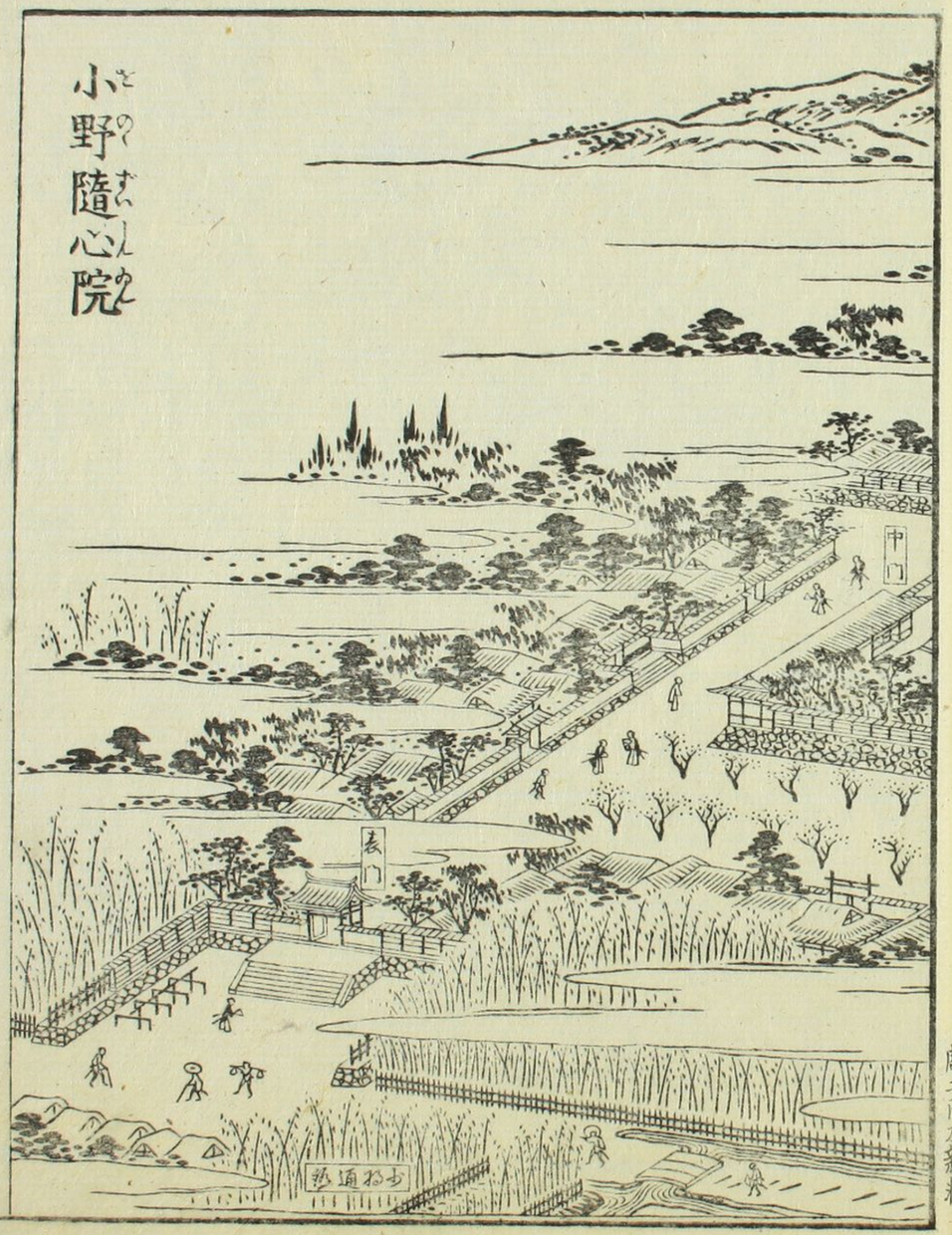


後門ゟ
櫻花をいつゝのむらしよう
雲ふあさ名れ立そ〳〵免々ん

義淳法師



小野随心院（おのずいしんいん）







ようそて次第におちうれゆくかとみるそまもなくして誘ひおわしいるそ名人　小野小町

萱尾明神社　醍醐の御日野ふあり　例祭九月廿日いとしへは

腰掛地蔵　萱尾の西ふあり本尊ハ行基の作長八尺

寺号を隆福寺とふ

大裡芝　日野村の民又町とうふあり

外山　日野村のうちの山をいふ　所ふ點長明方丈石あり

由緒前編ふ見えたり近年岩垣氏碑石を建ふ

天神宮　例祭九月晦日之

巖屋明神社　山科大宅村のうちふあり

山科神社二座土人生土神と次例祭九月十六日祓禊之基

興福寺旧蹟　岩屋明神多居の巽二町ふあり古寺之

山階寺とて

編年集成云大織冠鎌足公山階陶原舘ふ改てさるせうめい齊明天皇二年之

續日本紀云神護景雲二年ふ山階寺ふ行幸しる人天武帝白鳳之年ふ

階寺を大和国高市郡厩坂ふうつし釋書云明帝和二年法興元年ふ

旧の地ふうつして興福寺と改む

興福寺橋　旧所街道の中ふあり古橋之

佛足石　いまへ所ふあり今菊都西京某所ふ

妙見寺　岩屋明神のうしろふあり妙見堂ありて小屋と

の四方ふあり今ハそうし所東方の妙見ふるうん

大宅村 大宅寺



音羽山

顕注密勘云相坂関より東へ二階ばかり城と近江の境に音羽山あり

古今 貫之

わが庵の吹みし日より音羽山のおとにのみきくかな

夫木 中務親王

ある神のまゆ羽乃瀧やはさらん関のおとさへ絶ぬ

新後撰 為氏

滝津瀬をよそにわれ聞音羽山せくとてとまる人の

同 頼春

杜ふかくおりゆく袖や夜の雪

名寄 藤原成房

郭公いそきつゝ音羽山ぬるゝ袖にやどるなるらん

牛尾山

音羽山の由縁お綴ふべし

堀川百首

嶺さえて牛の尾山のいく人を栄来車みそくるあるらん

布引瀧

牛尾山のあり高三丈余幅二間計

蛇ヶ渕

布引瀧より二十間計坂路の左のあり深間小方四間餘の渕あり又厨子奥村の石上より流れ出る大蛇四手井氏の家の霊方乃九薬あり採金屑丸とゝむる山渕なり大蛇捜ぐ人民を悩せる事数々なり

四手井氏の先祖小仲賀右京郷と云る人常に牛尾瀧より糸網を投入れ漁猟を業とし居たりしが或日例の如く網を投入れ引揚んとするに大蛇網に懸りしを知らず引揚んとせしに大蛇怒りて網を引切り逃去りしが其後は網を投入れても大蛇網に懸りしを恨みて仇をなさんと思ひ東清水寺の音羽瀧一日一夜血潮あふれ出ること数日なりしかば大蛇の屍を

牛尾山法巌寺





小山村
白石明神



彫工脇本彩洞

川辺の芝生ぶそ焼捨しろ今ハ所を焼芝といふ景綱ハ我家ふかくそ隠栖ふ地乃漳氣ふあらんを命も名ふくんへらる所ふ香燃の衣を着る黒僧魚狩として素より狩人の霊方と與へある即御合しられを服薬もうんと水平習修験ふ行ふ四ツ井氏の家に代々必薬として伝ふる霊薬の功拠ためしうんとそ極罪の者十人を出して大赦なおし二人ハ即死を足ふ薬名の上ハ様の文字を遣らしめ此薬金創九号に足その薬鑑之今も厨子裏村四ツ井氏の族ハ救代仕くそう紋製しそ世ふ弘むる

若宮八幡 若狭村ふあり此所ふ例祭ハ九月日ハ年ふそして盛り

白石明神社 小山村ふあり古墳ふあり土人王塚といふ東の山の下ふ二の白石あり其例ふ社あり

白石庵 日所ふあり此の東祇樹一源統禅師行状之禅師諱ハ會統字ハ一源肥後の人之菊池藤氏之祖を戊寅の春小山ふ卜居して終焉の許

蓮如上人墳 山科本願寺奮ハ白石の神祠之隣ろ故之白石庵とも寺中廣大西ふ二町記之古ふ緑五年八月廿日ふ科本願寺炎焼して殿舎悉皆已剋計ふ仏殿の如し

今日一時之滅亡仁ハ嗟亭記

九月十二夜月ありろ

大宅や山科はくく小野山のふろふ夜多れを乃月哉 蓮如上人

實如上人墳 ハ所東野村のこんがふあり實如上人ハ本願寺九代ふて蓮如上人の八男之忠範法印権大僧都太永五年二月二日遷化を



山科妙見堂

奉贈日本山科實如老上人
上人德行是問何一箇禪門大丈夫心裏要容天外善此生渾似竹中虗

大明正德八年五月　杭州鉄冠道人詹仲和

大明詹仲和ふ竹の画を書實如上人を賞とる乃贊る乃今西本願寺實藏ふあり大明正德八年八日本永正十年ふ當る

青龍山白河寺　東野村ふあり禪宗ぬ心寺ふ屬ス本尊阿弥陀佛ハ慈覺大師之像二尺餘ハ澤土宇那谷ふ別時寺と号ス中興梅天和尚後白河院の宸牌旧帝の石塔あり當る初

三宮明神社　旧所ふあり祭神三座昔不合尊左楯荷右八幡ふ所乃生土神ぬ

阿弥陀寺　三宮本地堂と本尊阿弥陀佛脇士毘沙門不動開祖ハ大僧都頼音坊寛永年中の建立之後水帝の勅願所と

花山稲荷社　南花山ふあり世の人大石稲荷と称ス

梅本寺　花山道分の右ふあり禪宗曹洞中興ハ加州金澤大乘寺四十一世祖傳和尚うり

本尊十一面観音　長二尺脇士ハ愛染不動ハ花山帝の愛妃弘徽殿の好佛空しくあらせぬ様ふ御作ぬて寛和二年六月廿二日聖壽十九才ふて帝位ぬありさせ給ひけれと寺ふ至て佛髪改め給ふ法名と称ス其後熊野ふ詣ス乃近國ふて霊佛ぬ參詣ス其後紀州権現乃霊夢ぬ依て當寺の始祖佛眼上人ぬ選ませ給ふ所と承へ西國巡礼の始と其時自身ぬて當寺乃本尊ぬ御座ス故ふ笈摺の紀まるそうづけんぬ


仁和寺の法師ども清水
故拝んとて極楽寺
高良などとり成
むぶしんかへふり
勝道山籠かと
村里をそくりく
石のそくべう
かうそ河人を
本をおしの
ふくも
先達ハ
法師も
数珠
ねんね


権僧正永縁
新古今
白雲
の
峰
梢も
ふる
ぬる
袖
日へ
くれぬ
くり

阿弥陀堂 小花ふあり本尊阿弥陀佛 阿弥陀堂の本そこゝ一説ふ重盛公燈籠堂本そこゝ一町計ふあり初メハ天台宗迫年禅宗ふ改む

元慶寺 同所阿弥陀堂東小一町計ふあり初メハ天台宗迫年禅宗ふ改む 妙巌和尚天明二年ふ再建あり

本尊薬師佛 坐像七寸僧正再建あり

花山法皇像 一自紀共ふ脇極ふ安置ふ當寺ふ陽成帝ふ願ふて良観十一年ふ仏躰ふ刻ミ紀えを配して元慶寺ふ安置ふ

花山僧正 僧正遍昭俗姓ハ佐伯氏乃近臣ふて寵遇日々ふ昌ふり嘉祥三年三月帝崩シ其後暴ふ遭ふて比叡山ふ登リ遍昭ふ師事ふて得度ふ又勅ありて總持院ふ住シ延喜の室ふ入て台教ふ学ふ三年ふ僧正とある仁和帝遍昭ふ厚ふ乃座ふ寛平二年正月十九日入寂を已上元亨釋書

拾遺 まそといへともゝこ花ふ

花山法皇 人皇六十五代の帝諱ハ師貞冷泉第一の皇子寛和二年當寺ふ入て落飾シ法名を入覚法皇又花山院とも号ふ日年七月播列書写ふり幸ふまた寛弘五年二月八日崩シ寿齢四十一歳着聞集云そそも御門世をそむきすみそめのころほひ花山の法皇とそ申ける

遍昭墳 元慶寺の奥ふあり禅宗本尊釋迦佛坐像二尺五寸両基大圓宝塔のめりふ擬樹数株あり

其角 さゝ人をそとゝめんと林乃風

東山寺 元慶寺の奥ふあり禅宗本尊釋迦佛坐像二尺五寸両基大圓宝鑑國師拾荻抄ふ東山寺華ふと號を

神無森 追分の南半町計街道の右ふあり北諸羽明神の神旗所ふて盛衰記ふ會坂や一村松のもの見ゆと酬答ふ

蝉丸塔 追分の東今平地ふなりて坂ふ祠あり北蔭堂の坂ふあり実記詳ふ

杜風ふあひく渉芽のとゝ

同 世中にそもくてもれそこと

四宮河原 仁明帝第四宮の旧蹟ふて四のみこゝろせさゝへつゝめそれ

家集 ゝ都ふうつろふ四のえにの赤ふ色そえて

まま なけく四の宮にの赤ふ色そえて

諸葉山 四の宮にの赤ふ土人柳ふとよぶ

六帖 はゝそにそそめる葉山もみちゝそ

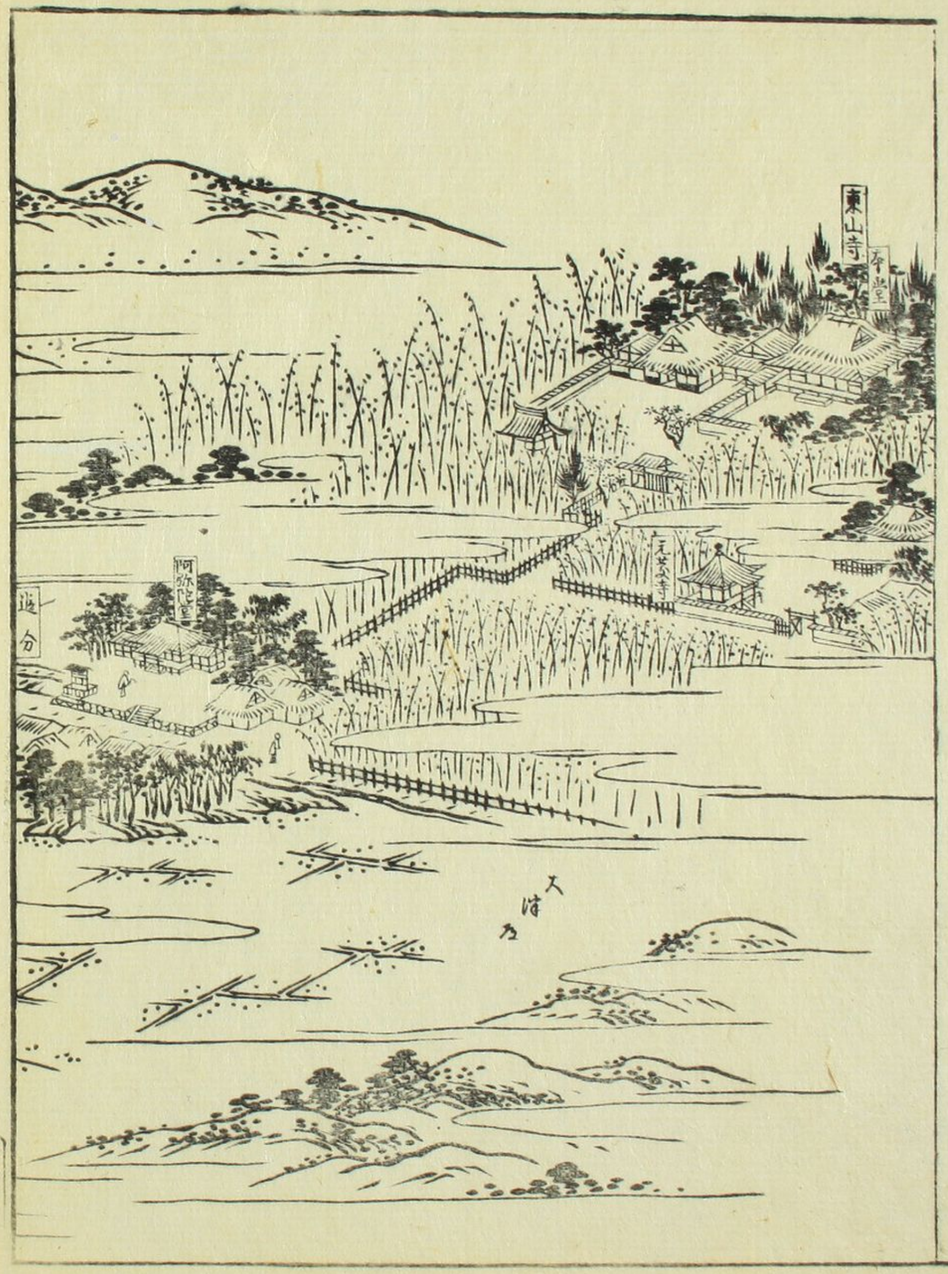
小町

順徳院

喜撰

北花山
東山寺
元慶寺
梅本寺

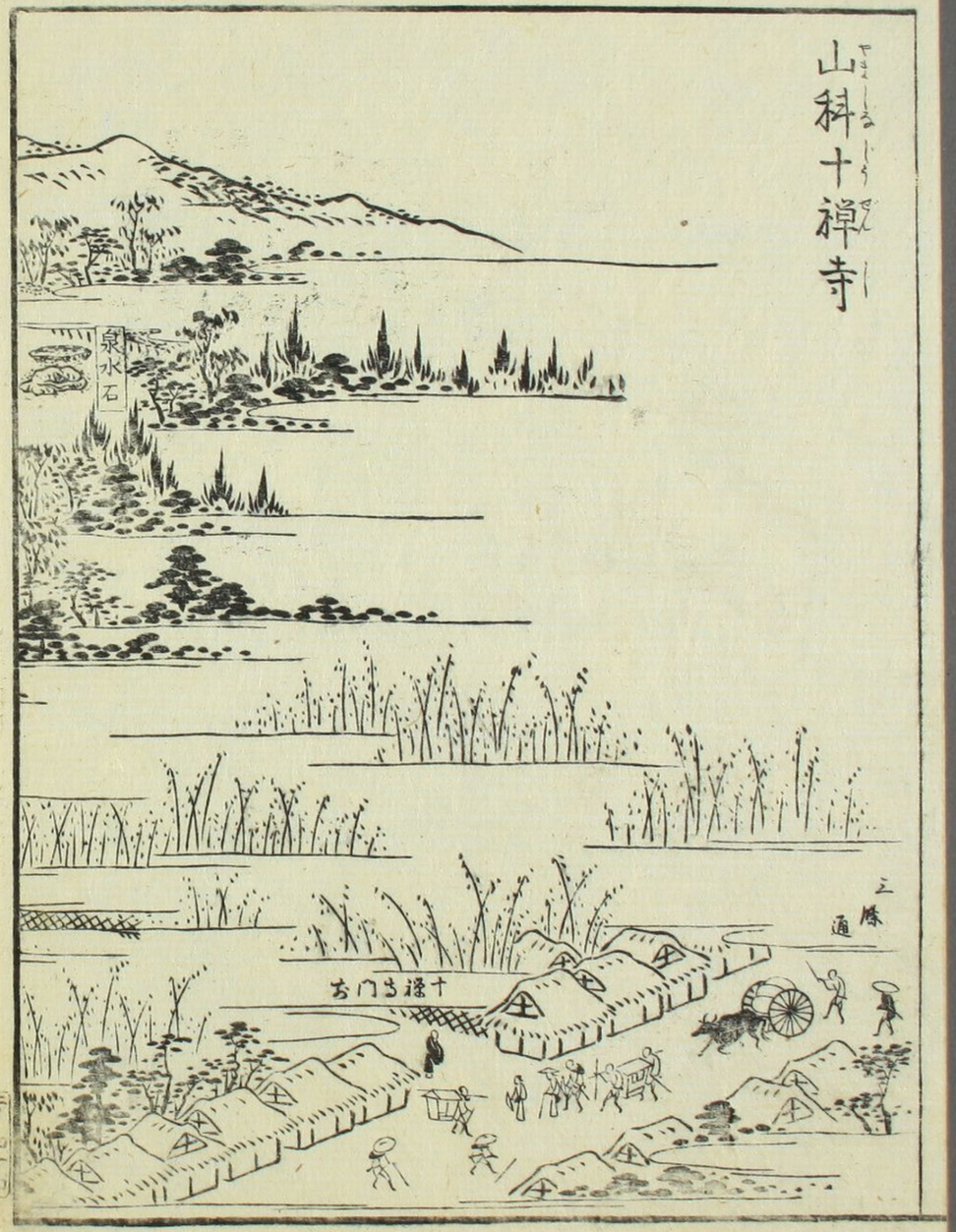


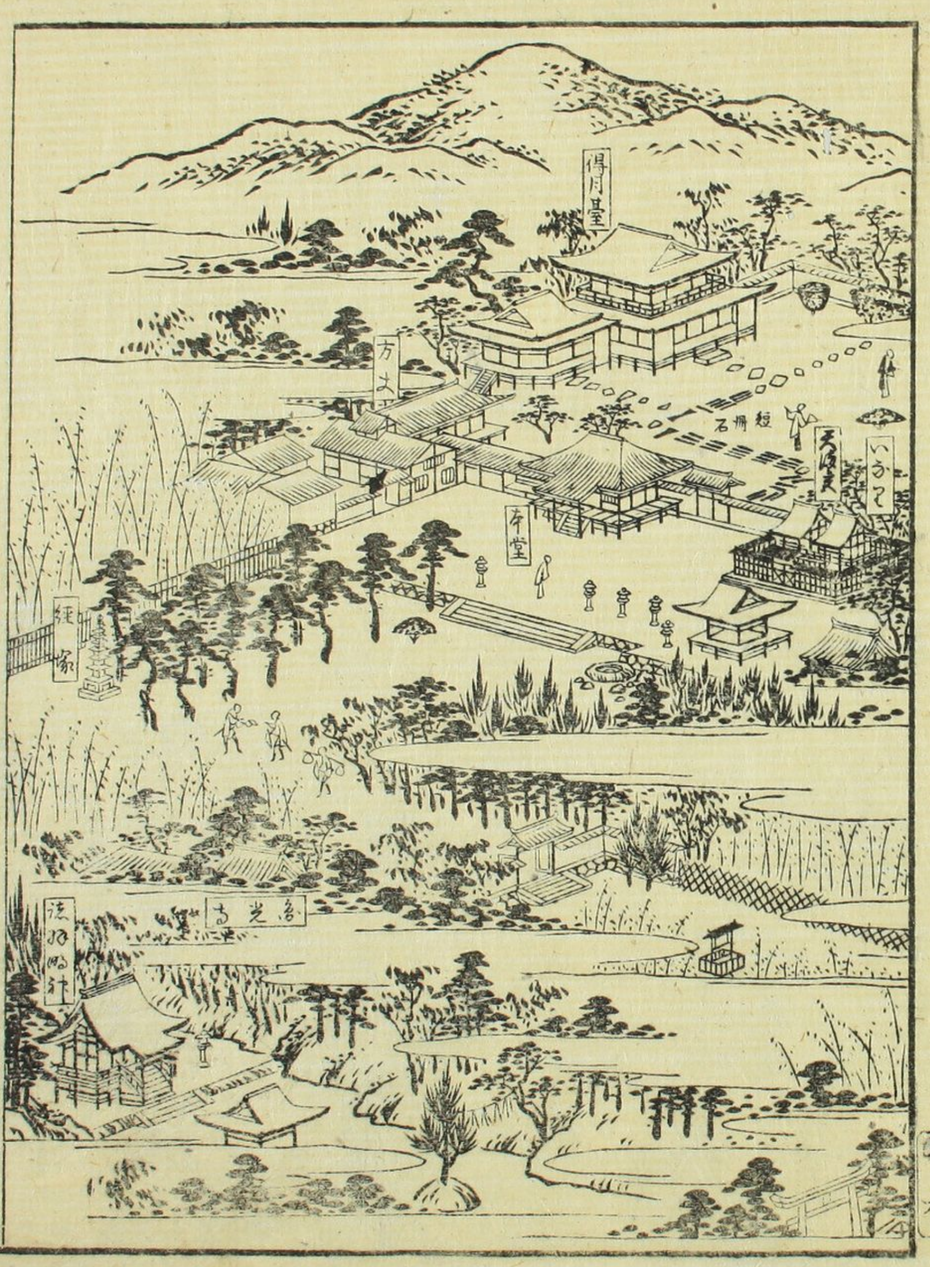




楊柳山十禅寺　山科の郷四宮天台宗みて本尊は聖観音　立像長二聖
村ふあり　天文ず
徳大子の御位之　勅筆ニて此ノ人康親王の
封舊ニ依ル　御所之山階宮と称ス　仁明天皇
第四の皇子四品彈正尹山科宮と号ス　人康親王の
貞観元年五月入道シ給ひ十四年薨を
祖ニ依そ　それより久しく荒廃
中興して此ニ住せり　法師異相乃道人みて牛ニ騎　堂舎ハ人皇百
濫觴坂着しゐう　給ひてとて
十代明正院霊夢坂感想し給ひ明暦之年ニ再営ありて二重乃
高閣を建らまとそしを得月墨とふづく上皇おりく行幸ぬして
山水坂愛し給ふ閣おゐ短冊石とゐおう短冊坂数をつべる形之
上皇渡御の時鳳輦の代ニ石上坂御宸筆の額あり得月墨と書ニ閣中
（件の石は昔ハ閣を
別宮坂ちふ列坂しゐう
乃本尊阿弥陀如来ハ後陽成院の勅作之其外
後水尾院
明正院　東福門院常憲院殿等神霊を安置之
御體鏡あり鎮守ハ稲荷社　天満宮坂勧請ニ

山科十禅寺






奴茶屋
翻と
空ふうき
ぬ凡巾
茶屋の
笑福

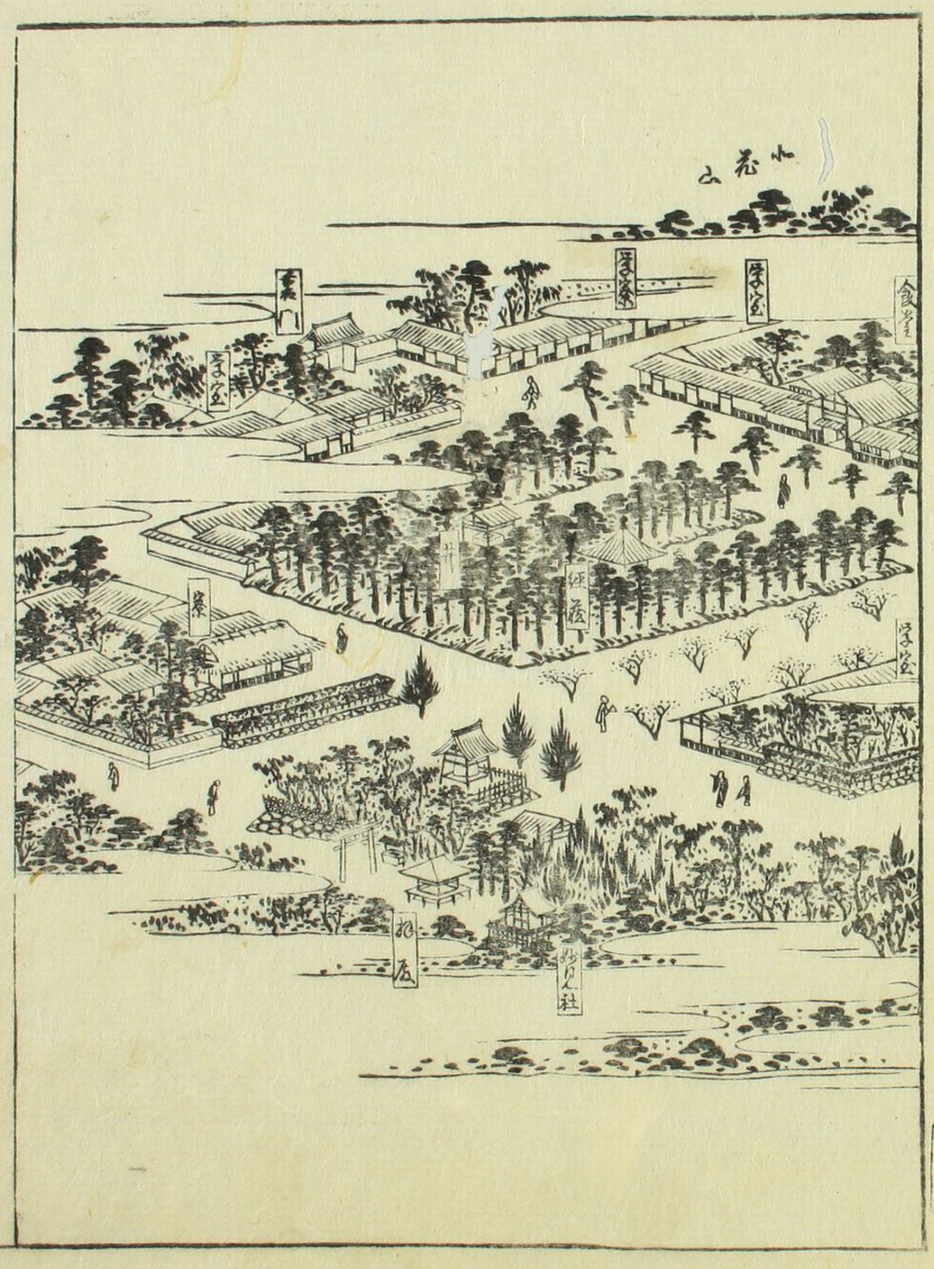

万徳油
畑氏製

地藏寺



人康親王奮蹟

十禅寺の傍石橋の西小祠の中に泉水ありこゝを此の地あるじ三代實録曰貞觀元年五月七日人康親王出家入山その心掛ありてその心掛ありてその心掛ありてその



伊澤



竹ヶ鼻護國寺

紫平谷　土人云安祥寺の山ふあり　今昔物語云右近中将在原業平とふ人
ある人の娘ふ具を飾ふ容顔艶麗みて
盗出して行ふる由をこゝに壮ふ荒くれ人
倉あり山内に娘と具して将行て
愷々しべ中将　たがを根てかをとゞ
ふ雷も暫く
鳴止やも暗ぬ

奴茶店　大津街道濁谷越ふ別ふ
小例ふあり
山名の名ふ作開ふ云傳とふ者
ふり八町計ふ剛居ふ具頭ふ諸
虚ふ楽して盗賊をこふ
うえのびど
所ふ茶店ふ泊て
を送て
と傳世作開流の射術を学人者

地蔵寺　山科　龍門寺の盤珪和尚
小寂ふ臨済禅師　佛智禅師

本尊地蔵尊　禅宗ふて開基ふ鐘山暁禅師中興ふ播州細
弘法大師の作之像之ふ
利尊氏公の
利ふ日勇上人ふり
開基ふ日御ふあり法華宗ふて

護国寺　ふ所ふ
ふ屬ふ一派の学校之

阿弥陀堂　ふ所ふ阿弥陀仏行基の作坐像ふ
所より二町ふ北方ふあり具葬所の本師堂ふて開基ふ行基之